

慶應義塾大学 大学院

文学研究科



*GRADUATE
SCHOOL OF
LETTERS*

2021

永い歴史と伝統をベースに、 新しい人文科学の研究へ

研究科委員長からのメッセージ

慶應義塾大学大学院文学研究科は、1951年に創設されて以来、西脇順三郎、井筒俊彦といった著名な研究者の伝統を継いで、人文科学全般の研究に大きな貢献をしてきました。哲学、史学、文学、図書館・情報学の4領域を中心に広く人文科学全体を覆う最高水準の専門研究を国際的に展開すると共に、幅広い教養と深い専門性を備えた研究者の養成を行うことで日本文化の発展に貢献し、さらに、アート・マネジメント、情報資源管理、日本語教育学の分野に見られるように、高度職業人の養成機関として大きな役割を果たしてきました。

修士課程及び博士課程の授業の大半は少人数の演習科目で、学生は、数多くの開講科目の中から指導教授のアドバイスを受けつつ、関連分野への視野と関心を保持しつつ、各自の専門的問題意識を発展させるための履修計画を立てることが可能です。

論文指導を担当する文学研究科委員の教員以外にも、文学部所属の専任教員の多くが大学院科目を担当しており、多方面からの親身な指導体制を確立しています。さらに慶應義塾全体の取り組みである「スーパーグローバル事業」の一環として、海外の著名な研究者を招聘して博士課程の学生の副指導教員として指導、先端的知見の教授など、教育内容の高度化のための取り組みも行っています。

博士論文は、各専攻が定めた手順に即して、論文の執筆と完成が可能になるように、さまざまな支援体制のもとで進められるように配慮されています。論文の審査には学外の専門家が副査として加わり、審査過程も透明性を有し、博士論文としての品質の高さが保証されています。そうして完成を見る博士論文は年間10本を超え、それらは国内外で次々と公刊されています。

豊富な教員による学生の研究テーマに密着した丁寧な指導と高度職業人の養成は、文学研究科の一番の特色であり、少人数セミナーと個別的な論文指導を通じて、学生は専門研究を進め、その成果を国際的に発信することが可能になっています。

文学研究科が基盤を置く三田キャンパスは、言語文化研究所、附属研究所斯道文庫、福澤研究センター、アート・センター、日本語・日本文化教育センターなど、人文科学分野のさまざまな研究所があり、文学研究科はこれらの研究機関と授業や研究において連携しています。さらにリーディング大学院プログラムをはじめとして、学内の他の研究科とのデュアルディグリープログラムが、領域横断的な研究を志す学生に用意されています。こうした

教育研究面における緊密な協力体制は、教育内容の幅を広げ、課題対応・問題解決の能力を涵養し、現実対応型の人材を養成するとともに、複数の領域を横断する独創的な研究を生み出すべく支援を行っています。

三田キャンパスには、国内有数の蔵書を誇り、和漢洋の貴重書を数多く所蔵する慶應義塾図書館や斯道文庫があり、これらの機関の協力のもとで歴史資料や貴重書を活用した研究をし、またそのための方法論を学ぶ環境も整っています。海外の研究機関との交流も活発で、海外の大学との共同セミナーや著名研究者による講演会などは、頻繁に開催されています。

慶應義塾大学には、充実した奨学金制度があります。各種の経済支援型の奨学金に加えて、優秀な成績や研究実績を挙げた学生を対象にした研究助成型の奨学金は、新入生と在学生在に付けて各種用意されており、修士・博士両課程在学中の全期間にわたってさまざまな学内奨学金への応募が可能です。また、文学研究科では、海外の大学院への留学を推奨しており、毎年多くの留学実績を残しています。慶應義塾全体の数多くの交換留学プログラムに加えて、研究科独自にロンドン大学キングス・コレッジへの短期留学プログラムも整備しています。2020年度からは国際学会発表や海外調査を行う大学院生のための支援制度も開始されます。

文学研究科に属する多くの研究者が文部科学省の科学研究費、学内の研究助成を受け、多様な共同研究プロジェクトを展開しています。文理融合型の「論理と感性のグローバル研究センター」は、代表例の一つです。そのような共同研究プロジェクトには大学院生も主要な若手メンバーとして参加しています。大学院生はプロジェクトに加わることで、その分野の最先端の研究に触れることができ、研究を進める上で大きな刺激を得ています。

歴史的視野と文化的多義性を尊重する人文科学の研究は、混迷多様化する現代においてますます重要性を増しています。人間は過去と他者から学ぶことによって、未来に対して展望を持ち対策を考える存在です。人間の知的営み、文化的交流、環境との関わりを多面的に研究し深く理解し、そのための方法論を確立してゆくことは、人間文化への大きな貢献であり、文学研究科はそのための最適な環境を提供することを目指しています。



文学研究科委員長
倉田 敬子

文学研究科ホームページ
<http://www.gsl.keio.ac.jp/>

2	研究科委員長からのメッセージ	12	国文学専攻 (国文学/日本語教育学)	20	大学院生の研究
3	ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー アドミッション・ポリシー	14	中国文学専攻	21	教員の研究
5	哲学・倫理学専攻 (哲学/倫理学)	15	英米文学専攻	22	科学研究費(学術振興会)の採択課題
7	美学美術史学専攻 (美学美術史学/アート・マネジメント)	16	独文学専攻	23	学位
8	史学専攻 (日本史学/東洋史学/西洋史学/民族考古学)	17	仏文学専攻	24	進路・留学
		18	図書館・情報学専攻 (図書館・情報学/情報資源管理)	25	学費・奨学金制度ほか
		19	コースの新設	26	入試日程・入試データ
		裏表紙	Access Informationほか		

CONTENTS

幅広い関心やニーズに応える、 専攻と分野の広がりと深まり

3つのポリシー

大学院文学研究科では、専門研究者の育成をめざして、ディプロマ・ポリシー（学位に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（科目構成に関する規定）、アドミッション・ポリシー（入学に関する方針）の3つのポリシーを掲げています。

修士課程

ディプロマ・ポリシー

大学院文学研究科では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たした学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士の学位を与える。

1. 専門とする分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、適切な研究方法とそれぞれの専門において必要となる諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表することができる。
2. 専門とする分野における特定テーマに関して修士論文を執筆し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献することができる。
3. 専門研究を通じて人間、文化、社会を考える力を持ち、重要な問題や課題を認識し、それを解決するための議論や実践に資する研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 文学研究科全体のカリキュラムの基盤として、各専攻・分野において修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、母語ならびに外国語による少人数演習科目を設置する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員の個別論文指導と演習授業を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報告会等の機会を設けて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
3. 修士論文審査については、論文題目および主査（原則として指導教員）および2名の副査（専任教員）で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。
4. 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
6. 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

アドミッション・ポリシー

大学院文学研究科では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、専門とする領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を的確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
4. 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。

後期博士課程

ディプロマ・ポリシー

大学院文学研究科では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士の学位を与える。

1. 専門とする分野の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成すことができる。
2. 研究対象とする分野において、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、母語や外国語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 専門研究を通じて人間、文化、社会を深く洞察する力を持ち、重要な問題や課題を発見し、それを解決していくための高度な研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に独自の貢献ができる。

カリキュラム・ポリシー

大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 専門とする分野の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する科目を中心とした履修を行うとともに、指導教員が中心となって個別に論文指導を行い、高度な研究能力を養う。
2. 博士学位取得のためには、学生は専攻、分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、博士論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査報告に基づき、文学研究科委員全員の投票によって合格しなくてはならない。
3. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、独自の貢献をするために必要な高度な研究能力を養成するため、後期博士課程の全在学期間を通じて履修可能な母語や外国語による少人数演習科目を設置し、その履修を修了要件とする。研究成果を学会や学術専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。
4. 文学研究科ならびに慶應義塾大学国際センター等を通じての留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
6. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。
7. 後期博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教員としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかたちで博士論文を準備することができる。

アドミッション・ポリシー

大学院文学研究科では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を有している。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 外国語の資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、学術的な論述力を身につけている。
4. 後期博士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。

哲学・倫理学専攻 Philosophy and Ethics

哲学分野

哲学分野は、文学研究科に設置されて以来一貫して西洋哲学を追求し、日本の哲学研究の中核を担ってきました。哲学は最も古い学問ですが、その長い伝統と先端の両方を兼ね備えているのが本分野です。哲学のすそ野は広大で、すべてをカバーすることはできませんが、伝統と現代の二点に研究の焦点を定めた点に特徴があります。スタッフは古典研究2名、現代研究5名と、重点的な配置になっています。学生は、修士課程に一学年約10名、後期博士課程に3、4名が在籍し、他大学、他学部からの入学者が半数ほどを占めています。

本分野の伝統の一つはギリシア・中世の古典研究にあり、プラトン、アリストテレスから中世哲学まで幅広い領域をカバーできる、私立大学では珍しい充実した陣容となっています。そこではギリシア語、ラテン語が飛び交い、哲学の原点にある諸問題が議論されます。もう一つの伝統は、戦後の論理実証主義以来の現代哲学です。この分野では論理学、言語哲学、科学哲学といった分析系の哲学、さらには現象学の研究が進められ、論理的な計算論、統語論や意味論、科学理論の構造、志向性といった現在の諸問題がさまざまに議論されます。

大学院の授業は学生が積極的に参加する形式で、自由に履修することができます。修士課程では修士論文、後期博士課程では博士論文という目標があり、多くの学生は学内外での研究に積極的に参加します。学内における三田哲学会の例会や、MIPS(三田哲学会の哲学・倫理学の合同研究会集会)での発表、機関誌『哲学』への論文執筆等のほか、各々が専門とする学会での発表、論文投稿など、活動の機会は大きく広がっています。一方でさまざまな研究プロジェクトも展開されており、教員スタッフだけでなく、学生の多くもその研究の一端を担う形で参加しています。

また、専任教員と学生の関係にも良き伝統が生きています。相互の信頼を基礎に日々の研究が進められていることはもちろん、授業以外での共同研究、さらには人間的なふれあいも随所に見られます。学生同士での研究会も多く、相互啓発も活発に行われています。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 上枝 美典 UEEDA, Yoshinori	西洋中世哲学	「トマスの言語哲学」(竹下政孝・山内志朗編『イスラーム哲学とキリスト教中世Ⅱ』岩波書店、2012)、「トマスの神はエッセのアイデアか」(中世哲学会『中世思想研究』55号、2013)、「現実性としてのエッセ再考」(関西哲学会『アルケー』21号、2013)、「トマスにおける神の知の不変性と時間の認識」(中世哲学会『中世思想研究』58号、2016)、「現実性をめぐって ――トマスの方から」(関西哲学会『アルケー』第25号、2017)
教授 柏端 達也 KASHIWABATA, Tatsuya	行為論 現代形而上学	『自己欺瞞と自己犠牲』(勁草書房、2007)、「幸福の形式」(戸田山和久・出口康夫編『応用哲学を学ぶ人のために』世界思想社、2011)、「自己欺瞞」(信原幸弘・太田絃史編『シリーズ新・心の哲学Ⅲ 情動篇』勁草書房、2014)、「コミュニケーションの哲学入門」(慶應義塾大学出版会、2016)、『現代形而上学入門』(勁草書房、2017)
教授 金子 善彦 KANEKO, Yoshihiko	西洋古代哲学	『動物の知性 ―『動物誌』に見るその位置づけと「擬人化」の問題―』(『理想』第696号、理想社、2016)、アリストテレス全集第八・九巻『動物誌』上・下(共訳・解説、岩波書店、2015)、「ボリス的動物の自然性 ― アリストテレスの政治学・倫理学にみる人間像」(首都大学東京 人文・社会系編『人文学報』第429号、2010)、「アリストテレスの思惟論再考」(首都大学東京都市教養学部人文・社会系紀要『人文学報』第414号、2009)
教授 斎藤 慶典 SAITO, Yoshimichi	現象学 西洋近・現代哲学	『心という場所:「享受」の哲学のために』(勁草書房、2003)、『「実在」の形而上学』(岩波書店、2011)、『生命と自由:現象学、生命科学、そして形而上学』(東京大学出版会、2014)、『「東洋」哲学の根本問題:あるいは井筒俊彦』(講談社、2018)、『私は自由なのかもしれない:〈責任という自由〉の形而上学』(慶應義塾大学出版会、2018)

倫理学分野

倫理学分野は、哲学分野とともに長い歴史を有しています。哲学とは別に倫理学を専門分野として設けている大学院は全国でもわずかしがなく、その中でも、本分野は最大規模のスタッフを擁しており、日本における倫理学研究の拠点の一つになっています。

倫理学分野のスタッフがカバーしているのは、近現代のドイツ、フランス、イギリス、アメリカの思想です。発足以来、この領域に重点を置きながら、スタッフをバランスよく配しています。また、現代の倫理学は規範倫理学・メタ倫理学・応用倫理学に大別されますが、本分野では、規範倫理学はもちろん、メタ倫理学や応用倫理学の研究・教育も行っています。さらに、宗教哲学、社会哲学など、倫理学と密接に関連する領域についても、長年にわたり、研究と教育を行っています。

スタッフの具体的な専門分野は、中世・近世の形而上学、現代のフランス思想、近代のイギリス倫理思想史、カントの倫理学、医療倫理学、メタ倫理学などです。他の領域については、毎年、専門の研究者を講師として招いており、倫理学について広く研究することができます。

倫理学分野は少人数教育をとくに重視しています。例年、修士課程には4名程度、後期博士課程には5名程度の大学院生が在籍しており、それぞれの問題関心に従って専門研究を進めています。修士課程では、研究者としての基礎を養い、優れた修士論文を執筆することを目標としています。後期博士課程では、学会や研究会での口頭発表や論文執筆などを通じて、研究者としての能力を高め、研究成果を博士論文としてまとめることを目標にしています。修了者の多くは研究者の道に進みますが、大学院で得た専門知識を活かして社会で活躍する人も数多くいます。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 エアトル ヴォルフガング ERTL, Wolfgang	倫理学史 形而上学 現代倫理学	Kants Auflösung der“dritten Antinomie”: Zur Bedeutung des Schöpfungskonzepts für die Freiheitslehre(Freiburg, München: Alber, 1998)、David Hume und die Dissertation von 1770: Eine Untersuchung zur Entwicklungsgeschichte der Philosophie Immanuel Kants(Frankfurt/M.: Lang, 1999)、“Ludewig”Molina and Kant’s Libertarian Compatibilism, in Matthias Kaufmann and Alexander Aichele (eds), A Companion to Luis de Molina (Leiden, Boston: Brill, 2014)、On Christopher Insole’s “Kant and the Creation of Freedom.” In: Critique (2017), online、The Guarantee of Perpetual Peace in Kant: Remarks on the Relationship between Providence and Nature’, In: Violetta L. Waibel et al. (eds.), Natur und Freiheit. (Berlin, Boston: De Gruyter, 2018)
教授 柘植 尚則 TSUGE, Hisanori	イギリス倫理思想史	『良心の興亡：近代イギリス道徳哲学研究』(ナカニシヤ出版、2003／増補版、山川出版社、2016)、『イギリスのモラリストたち』(研究社、2009)、『プレップ倫理学』(弘文堂、2010)、『プレップ経済倫理学』(弘文堂、2014)、『入門・倫理学の歴史：24人の思想家』(編著、粹出版社、2016)
教授 奈良 雅俊(哲龍) NARA, Masatoshi (Tetsuro)	現代フランス哲学 医療倫理学	『シリーズ生命倫理学 第12巻 先端医療』(共著、丸善出版、2012)、The Future of Bioethics: International Dialogues(共著、Oxford University Press、2014)、『救急・集中治療における臨床倫理』(共著、克誠堂出版、2016)、『入門・倫理学』(共著、勁草書房、2018)
教授 山内 志朗 YAMAUCHI, Shiro	西洋中世・近世思想 倫理学と形而上学	『天使の記号学』(岩波書店、2001)、『ライブニッツ』(NHK出版、2003)、『普遍論争：近代の源流としての』(平凡社ライブラリー、2008)、『存在の一義性を求めて』(岩波書店、2011)、『「誤読」の哲学：ドゥルーズ、フーコーから中世哲学へ』(青土社、2013)

美学美術史学専攻 Aesthetics and Science of Arts

慶應義塾における美学美術史学の歴史は、1892(明治25)年に開講された森鷗外の「審美学」にまで遡ります。当初は美学および西洋美術史から出発しましたが、その後、日本・東洋美術史、西洋音楽史、音楽が関わる舞台芸術一般を研究領域に加え、近年は芸術運営、芸術支援などの研究・教育にも積極的に取り組んでいます。

すなわち本専攻には、理論研究(美学・芸術学)、歴史研究(美術史・音楽史・舞台芸術史・現代芸術論)、実践研究(アート・マネジメント)の3つの柱があります。2005(平成17)年度には、この3つの柱を下記の2つの分野に集約し、より充実した教育が行える体制を整えました。なお学生は、在籍する分野と異なる分野に設置された科目を一定の範囲内で履修し、修了に必要な単位とすることが可能です。

美学美術史学分野
<p>美学美術史学分野は、理論研究、歴史研究を行う分野です。美学・芸術学、日本・東洋美術史、西洋美術史、西洋音楽史、舞台芸術史、現代芸術論が研究教育の範囲となります。専任者のほか若干名の非常勤講師が授業を担当し、幅広い分野をカバーしています。修士課程では修士論文の作成が必須です。また、後期博士課程では専門研究者として内外で活躍する人材の養成を目指し、学位論文(課程博士)提出により博士学位を取得する道が用意されています</p>

アート・マネジメント分野
<p>アート・マネジメント分野は、芸術経営において必要とされる諸領域の知識、先導的なスキル獲得とプロフェッショナル養成を目標とした分野です。大学卒業後3年以上が経過し、実務経験を有する社会人が対象となります。授業内容は、非営利組織論、組織理論と組織行動論、マーケティング、ファンドレイジング、文化政策、芸術関連法規、ケース・メソッドなどから構成され、専任者のほか各領域で活躍する講師が教育にあたります。現在、開設されているのは修士課程のみで、社会人の学生のために平日夜間と土曜に集中して開講しています。修了には修士論文の作成が必須です。</p>

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 <p>後藤 文子</p> GOTO, Fumiko	西洋美術史	『近代デザインにおける「統合」と「規格」：タイポグラフィから建築、そして庭園へ』(『DNP文化振興財団学術研究助成紀要』Vol. 1、公益財団法人DNP文化振興財団、2018)、Ostwalds Farbenlehre und die Farben von Pflanzen. Uber Farbentafeln im Gartenbau, in: Mitteilungen der Wilhelm-Ostwald-Gesellschaft e. V., 22.Jg. 2017, H. 2、『近代園芸学とオストヴァルト色彩論』(『美学』248号, 美学会, 2016)、『近代芸術と共感覚：「共働する感覚」への総合芸術的問いかけ』(共著、石田紗衣編『共感覚から見えるもの：アートと科学を彩る五感の世界』勉誠出版、2016)、『造園植栽家フェルスターをめぐる「〈近さ〉の交信」「〈遠さ〉の交信」：モダニズム建築と天体観測と気象芸術学』(『Booklet(慶應義塾大学アート・センター研究紀要)』22号【特集：コスモス：いま、芸術と環境の明日に向けて】編集主担当, 慶應義塾大学アート・センター、2014)
教授 <p>遠山 公一</p> TOYAMA, Koichi	西洋美術史	Brunelleschi's ram (The Burlington Magazine, vol.136, no.1101, 1994)、『台座考』(『西洋美術研究』第9号、2003)、Light and Shadow in Sassetta: The Stigmatization of Saint Francis and the Sermons of Bernardino(Machtelt Israëls (ed), Sassetta, The Borgo San Sepolcro Altarpiece, Leiden-Florence, 2009)、『祭壇画の解体学』(編著,ありな書房、2011)、『西洋絵画の歴史1 ルネサンスの驚愕』(小学館、2013)
教授 <p>内藤 正人</p> NAITO, Masato	日本美術史	『もっと知りたい歌川広重 生涯と作品』(東京美術、2007)、『勝川春章と天明期の浮世絵美人画』(東京大学出版会、2012)、『浮世絵とパトロン』(慶應義塾大学出版会、2014)、『うき世と浮世絵』(東京大学出版会、2017)、『北斎への招待』(朝日新聞出版、2017)
教授 <p>西川 尚生</p> NISHIKAWA, Hisao	音楽学 <p>西洋音楽史</p>	『モーツァルト』(音楽之友社、2005)、『ラノワ・コレクションのモーツァルト資料』(樋口隆一編著『進化するモーツァルト』春秋社、2007)、『モーツァルト《ト短調交響曲》K. 550の“Corrupt Passage”再考』(『新モーツァルティアーナ 海老澤敏先生傘寿記念論文集』音楽之友社、2011)、『W. A. モーツァルトの演奏用パート譜に関する一考察 –「筆者者二七」のミサ曲史料を中心に–』(『芸術学』(慶應義塾大学・三田芸術学会誌)第22号, 2018)、『Die Bassbesetzung in den Serenaden, Divertimenti und Notturni von Michael Haydn』(<i>Johann Michael Haydn. Werk und Wirkung</i> , Strube Verlag, München, 2010)
教授 <p>林 温</p> HAYASHI, On	日本美術史	『鎌倉仏教絵画考：仏画における「鎌倉派」の成立と展開』(中央公論美術出版、2010)、『仏教美術史論集Ⅰ 様式論――スタイルとモードの様式分析』(編著、竹林舎、2012)、『仏教美術論文集3 図像学Ⅱ ―イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)』(編著、竹林舎、2014)、『別尊曼荼羅』(『日本の美術』433、至文堂、2002)、『妙見信仰と星曼荼羅』(『日本の美術』377、至文堂、1997)
教授 <p>藤谷 道夫</p> FUJITANI, Michio	イタリア語・イタリア文学 <p>西洋古典学</p> <p>比較文学</p>	『神曲』地獄篇(第1歌～第17歌)(河出書房新社、2018)、ダンテ『神曲』における数的構成(慶應義塾大学出版会、2016)、Shinkyoku, il canto divino. Leggere Dante in Oriente, Trento, Editrice Università degli Studi di Trento, 2000.、Dalla legge ottica alla poesia: la metamorfosi di «Purgatorio» XV 1-27”, «Studi danteschi», vol. LXI (1989), Società Dantesca Italiana, “Leggere le poesie dall’ottica filosofica orientale/occidentale: Haru to shura di Miyazawa Kenji e La Divina Commdia (Inf.VII, XVII, XIX) di Dante Alighieri”, Congedo editore, 2008.
教授 <p>望月 典子</p> MOCHIZUKI, Noriko	西洋美術史・芸術学	『ニコラ・プッサン：絵画的比喩を読む』(慶應義塾大学出版会、2010)、『ニコラ・プッサンの「聖家族」――一六五〇年前後のフランスでのプッサン受容を手掛かりに』(近世美術研究会編『イメージ制作の場と環境―西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論』所収、中央公論美術出版、2018)、『Le tableau d'autel du Roi: L'institution de l'eucharistie de Nicolas Poussin』(Aesthetics , The Japanese Society for Aesthetics, no. 22, 2018)、『Mars et Vénus de Nicolas Poussin: Sa réception de l'art antique et de la poétique de Marino』(Dix-Septième siècle, Presses Universitaires de France, no.255, 2012)、『Le regard des curieux sur les peintures dans le Paris du XVIIème siècle』(Aesthetics, The Japanese Society for Aesthetics, no. 16, 2012)

史学専攻 History

日本史学分野
<p>史学専攻では、歴史を個々の人間の営為の積み重ねととらえ、歴史を学ぶことは、人間とその生きた社会を知ることと位置づけています。そのため、時には対象とする地域や時間、あるいは、旧来の学問の枠を越え隣接科学の成果も踏まえるなど、より多くの学びを求めています。</p> <p>特に日本史学分野で重視しているのは、日本史の研究を国内史に狭くとどめることなく、国際的な視野に立って検討することと、現代の目から見るだけでなく、その時代の人々の視点や思考に即して歴史を捉えるように努めることです。古代の社会を日中の史料の比較から、中世の経済を東アジアの交易圏に組み込まれた形で、キリシタン時代の社会を地球規模の動きの中で、「鎖国」時代の国内問題を国際関係の視点から、近代の国内市場の動向を植民地・諸外国に向けた対外取引との連関に注目しつつ、それぞれ捉えるのが、前者の例としては分かりやすいでしょう。古代の人々の仏教との関わり方を階層ごとに掬い取る、中世の人々の貨幣観念を復元する、近世の人々の多様な信仰の実態を探る、近代の産業が地域ごとに製品のバリエーションを生みながら発展してきた基盤や背景を掘り下げるなどの研究は、後者の方向性から生まれてくるものです。</p>

いずれにしても学生は、歴史学のもつ広範な領域と方法を学ぶことになるはずです。そして、このような目的を達成するために良質な史料を活用し、それにより実証的な研究を進めるよう指導しています。大学院修了後には、学界などでも広く通用する日本史研究者や博物館学芸員、中学校・高等学校で教鞭をとる歴史教育者を育成できるよう努力しています。

授業は7名の専任教員と若干名の非常勤講師が担当しています。修士課程では毎年10科目前後が開講されています。それらは史料講読を中心とする科目(日本史特殊講義演習、古文書学特殊講義)と、講義を中心とする科目(日本史特殊講義)に大別され、修士論文の作成が必修とされています。また、後期博士課程では研究論文の作成支援を行うほか、史料講読を主とする日本史特殊研究が5科目前後開講されています。後期博士課程の学生には、学位論文(課程博士)を提出して博士(史学)の学位を取得する道が開かれています。

修士課程と後期博士課程はともに、古代から近現代に至るまで各時代の科目を満遍なく開講し、可能な限り多様な対応を試みています。授業はいずれも学生5～6名前後の少人数で行われ、授業科目によっては史料調査、博物館・文書館・遺跡の見学などを行います。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 <p>浅見 雅一</p> ASAMI, Masakazu	キリシタン史 <p>中国天主教史</p>	『キリシタン時代の偶像崇拜』(東京大学出版会、2009)、『フランススコ＝ザビエル：東方布教に身をささげた宣教師』(山川出版社、2011)、『韓国とキリスト教：いかにして“国家的宗教”になりえたか』(共著、共著者：安廷苑、中公新書、2012)、『概説キリシタン史』(慶應義塾大学出版会、2016)、『キリスト教と寛容：中近世の日本とヨーロッパ』(共編著、共編者：野々瀬浩司, 慶應義塾大学出版会、2019)
教授 <p>井奥 成彦</p> IOKU, Shigehiko	近世―近代日本社会経済史	『19世紀日本の商品生産と流通』(日本経済評論社、2006)、『近代日本の地方事業家』(共編著、日本経済評論社、2015)、『醤油醸造業と地域の工業化』(共編著、慶應義塾大学出版会、2016)、『日本経済史1600-2015』(共著、慶應義塾大学出版会、2017)、『豪農たちの近世・近代』(共編著、東京大学出版、2018)
教授 <p>中島 圭一</p> NAKAJIMA, Keiichi	日本中世史	『貨幣からみた『日本』：中世貨幣の成立から解体まで』(『環』6、2001)、『中世の寺社金融』(『宗教社会史』〈新体系日本史15〉、山川出版社、2012)、『中世貨幣』成立期における朝廷の渡来銭政策の再検討(『日本史研究』622、2014)、『十四世紀の歴史学：新たな時代への起点』(編著、高志書院、2016)、『十五世紀生産革命論再論』(『国立歴史民俗博物館研究報告』210、2018)

■ 史学専攻

東洋史学分野

東洋史研究の対象は一般的にアジアと呼ばれる地域ですが、問題設定の方法、時代によってはアフリカやヨーロッパもその視野に入ってきます。中東イスラーム世界の歴史研究を志す人にとって、マグリブやバルカンも重要地域であり、華人のネットワークに興味をもつ人は、アジアのみならずアメリカやヨーロッパも視野に入れなければなりません。

東洋史の魅力は、このような広大な対象地域にあるといっても過言ではありません。しかし、専門性を重視する大学院においては、広く浅く学ぶというやり方は避けなければなりません。そこで東洋史学分野では、これまでの学問的な伝統と、史料を読むツールとしての語学などとの関係から、以下のように対象を東西二つの領域に分けています。それぞれの領域で完結性の高いカリキュラムを組み、深く学べるようになっています。

一つ目の領域は、中国を中心とする東アジア史研究です。ここには中国古代史研究と、史料を重視する実証主義史学や文献史学の伝統に基づく、明清から人民共和国期にかけての中国近現代史研究が含まれます。前者は松本信広以来の学統である民俗学的手法を取り入れたもの、後者は明治から大正期にかけて日本を代表する東洋史学者であった、田中萃一郎によって切りひられたものです。また、日本と中国および世界の華人ネットワークを視野に入れた都市社会史や文化交流史も、もう一つの柱になっています。

二つ目の領域は、アラブ、トルコ、イラン、中央アジアなどの中東イスラーム世界史研究です。かつてこれら諸地域の研究は、中国の辺境史としての位置づけしか与えられてきませんでした。しかし、今では世界をとりまく情勢が変わり、緊急にして最重要な分野として誰もが認めるようになっています。本塾ではこの分野におけるパイオニアである前嶋信次、井筒俊彦の学統を継承しながら、アラブでは社会史研究に、非アラブではオスマン帝国史研究に重点をおきながら研究・教育を行っています。

以上は教員サイドから見た特徴と言えるものですが、院生は基本的に自分の好きなテーマで研究が行えるようになっています。自分の頭と身体でアジアを知り、師を越えるという気概を持ち、自らの手で新しいフロンティアを探りあて社会に巣立って欲しいという思いがあるからです。そのために、外部から多彩な講師陣を招いて知的刺激の拡充に努める一方、社会に出てから場合によっては欧米系の言葉以上に有力な武器となる、東西のアジア系諸言語を存分に学べるカリキュラムが用意されています。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 <p>岩間 一弘</p> IWAMA, Kazuhiro	東アジア近現代史 <p>食の文化交流史</p> 中国都市史	『上海大衆の誕生と変貌：近代新中間層の消費・動員・イベント』（東京大学出版会、2012）(葛涛・甘慧杰訳『上海大衆的誕生と変貌：近代新興中産階級の消費、動員と活動』上海辞書出版社、2016)、「中国料理のモダニティ：民国期の食都・上海における日本人ツーリストの美食体験」(関根謙編『近代中国　その表象と現実：女性・戦争・民俗文化』平凡社、2016）(彭凡訳『中国菜的現代性：日本遊客在民国時期食都上海的美食体験』巫仁恕編『城市指南與近代中国城市研究』台北、開源書局、2019)、『中国料理と近現代日本:食と嗜好の文化交流史』(編著、慶應義塾大学出版会、2019)、「中国料理はなぜ広まったのか：地方料理の伝播と世界各国の「国民食」」(西澤治彦編『「国民料理」の形成』ドメス出版、2019)、「『旅行満洲』に見る都市・鉄道・帝国の食文化:『満洲料理』『満洲食』の創成をめぐって」(『旅行満洲』解説・総目次・索引)不二出版、2019)
教授 <p>桐本 東太</p> KIRIMOTO, Tota	中国古代史 <p>中国民俗学</p>	王仲殊著『中国からみた古代日本』(翻訳、学生社、1992)、『南方熊楠を知る事典』(共著、講談社、1993)、『中国古代の民俗と文化』(刀水書房、2004)
教授 <p>長谷部 史彦</p> HASEBE, Fumihiko	中東社会史 <p>地中海交流史</p>	『中世環地中海圏都市の救貧』(編著、慶應義塾大学出版会、2004)、『オスマン帝国治下のアラブ社会』(単著、山川出版社、2017)、『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』(編著、慶應義塾大学出版会、2014)、『ナイル・デルタの環境と文明 I・II』(編著、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2012-13)

西洋史学分野

西洋史学分野の修士課程では、以下に紹介する教員の個別研究分野よりやや広い分野で、一次史料や基礎的研究文献を講読し、基礎知識の獲得を目指します。後期博士課程では、身につけた基礎知識を前提として、さらに高度な研究能力を養成します。そして、学位論文の作成を通じて研究者を育成することを目標とします。西洋史は、時間的・空間的に膨大な領域を対象とします。しかし、学部教育と違い大学院、特に後期博士課程では、学生の研究分野と教員の指導できる分野が近接していなければなりません。そういった意味から、以下に各教員の個別研究分野をやや詳しく紹介しますので、参考にしてください。

吉武憲司が専門とするのは、11・12世紀イングランドですが、大学院で担当する分野は、中世イングランド全般およびその周辺のイギリス諸島地域です。ただし、イギリスを専門とするにしても大陸史の基礎知識は必須です。神崎忠昭の専門分野は中世教会史で、特にヨーロッパ中世の人々の信心を探ることを目指しています。史料制約があり庶民を対象とすることは難しいため、8世紀から14世紀にかけての修道士たちが著したラテン語テキストを丹念に読み込んでいます。山道佳子はカタルーニャの近代社会文化史を専門にしています。現在は18世紀後半から19世紀前半のバルセローナにおける絹を扱う手工業者を主な対象として、経済状況の変化に彼らがどのように対応したのか、当該時期に彼らの労働文化や生活文化、あるいは家族のあり方はどのように変化したのか、解散を迎える前のギルドはどのように機能したのかといった問題を、遺言書や死後財産目録、徒弟契約などの公証人文書から明らかにする研究に取り組んでいます。野々瀬浩司は、スイス及び西南ドイツの宗教改革期を対象に、宗教改革の思想的背景、神学上の諸問題、さらには領主－農奴関係の変化などを研究しています。清水明子は、ドイツ、バルカン現代史を専門にしています。現在は、ナチス・ドイツのヨーロッパ広域秩序構想と大クロアチア国民国家建設の接点における、権力関係と社会的変容の再構成に取り組んでいます。坂田幸子は20世紀初頭、マドリードを中心に展開した前衛文学運動ウルトライスモについて、その文化的・社会的背景や、他の芸術領域との相互影響関係などの面から調べています。長谷川敬は、古代ローマ社会経済史を専門とし、特にカエサル征服後のガリアやローマ領ゲルマニアの商人、職人、運送業者が、どのような人的ネットワークを構築していたのかを、主に碑文史料から明らかにすることを目指しています。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 <p>神崎 忠昭</p> KANZAKI, Tadaaki	西洋中世史	ジャン・ルクレール『修道院文化入門：学問への愛と神への希求』(共訳、知泉書館、2004)、『ヨーロッパの中世』(慶應義塾大学出版会、2015)、『断絶と新生：中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』(編著、慶應義塾大学出版会、2016)
教授 <p>坂田 幸子</p> SAKATA, Sachiko	スペイン語 <p>スペイン文学・文化</p>	「テオフィル・ゴーチエ、1840年のスペイン旅行」(宮崎揚弘編『続・ヨーロッパ世界と旅』法政大学出版局、2001)、「越境を生きたスペイン女性作家たち　ールシア・サンチェス・サオルニルとマリア・テレサ・レオンー」(モダニズム研究会編『モダニズムの越境－II』人文書院、2002)、「おてんば少女の輝いた時代　ース페인女性作家たちによる児童小説－」(柴田陽弘編『文学の子どもたち』慶應義塾大学出版会、2004)、『ウルトライスモ　マドリードの前衛文学運動－』(国書刊行会、2010)、『初歩のスペイン語(13)』(共著、放送大学教育振興会、2013)
教授 <p>清水 明子</p> SHIMIZU, Akiko	ドイツ現代史・ユーゴスラヴィア史	Die deutsche Okkupation des serbischen Banats 1941-1944 unter besonderer Berücksichtigung der deutschen Volksgruppe in Jugoslawien (Münster: Lit-Verlag, 2003) 487pp.、「バルカンにおける負の連鎖－ボスニア内戦を中心に,』『「対テロ戦争」の時代の平和構築－過去からの視点、未来への展望』(東信堂、2008)、「ナチス・ドイツ傀儡『クロアチア独立国』のセルビア人虐殺(1941～42年)」および「クロアチア『祖国戦争』と『民族浄化』(1991～95年)」『大量虐殺の社会史－戦慄の20世紀』(ミネルヴァ書房、2007)、「ボスニア紛争のメカニズム－多民族社会の再建に向けて,』『紛争現場からの平和構築－国際刑事司法の役割と課題』(東信堂、2007)、K. カーザー『ハブスブルク軍政国境の社会史』(共訳、学術出版、2013)
教授 <p>野々瀬 浩司</p> NONOSE, Koji	スイス宗教改革史 <p>農村社会史</p>	『ドイツ農民戦争と宗教改革：近世スイス史の一断面』(慶應義塾大学出版会、2000)、「ドイツ農民戦争期におけるチューリヒの農奴制問題について」(『西洋史学』197号、2000)、「宗教改革者と農奴制：ベルンの再洗礼派の例を中心にして,』(『西洋史学』212号、2004)、『宗教改革と農奴制:スイスと西南ドイツの人格的支配』(慶應義塾大学出版会、2013)、『キリスト教と寛容：中近世の日本とヨーロッパ』(共編著、共編者：浅見雅一、慶應義塾大学出版会、2019)
教授 <p>山道 佳子</p> YAMAMICHI, Yoshiko	スペイン(カタルーニャ)近代史	『近代都市バルセローナの形成：都市空間・芸術家・バトロン』(共著、慶應義塾大学出版会、2009)、「ギルド社会における職業と家族：産業革命前夜のバルセローナにおける絹産業」(『スペイン史研究』28号、2014)、「ギルドの再評価」と徒弟制度：産業革命前夜のバルセローナにおける絹産業(1770年－1834年)を一例として,』(『史学』第87巻、第1・2号、2017)、『概説近代スペイン文化史』(第3章 王政復古期の文化、第16章 スポーツの文化史 担当)(共著、ミネルヴァ書房、2015)、「Los fabricantes de medias de seda de la Barcelona pre-industrial, 1770-1808”. Å. Solà (ed.), Artesanos, gremios y género en el sur de Europa (siglos XVI-XIX), Universitat de Barcelona/Icaria, 2019.
教授 <p>吉武 憲司</p> YOSHITAKE, Kenji	西洋中世史(イギリス中世史)	E.キング『中世のイギリス』(監訳、慶應義塾大学出版会、2006)、B.ハーヴェー編『12・13世紀』(オックスフォードブリテン諸島の歴史 4巻)(監訳、慶應義塾大学出版会、2012)、The Place of Government in Transition: Winchester, Westminster and London in the Mid-12th Century’, in Rulership and Rebellion in the Anglo-Norman World, ed.PDalton and D. Luscombe (Farnham, 2015)

民族学考古学分野

民族学考古学分野では、フィールドワークに基づいて集積された一次資料を利用して過去の社会や民族文化の歴史的再構成を行います。主な研究指導対象分野としては、日本の先史考古学、歴史考古学、南レヴァント地方を中心とする西アジア考古学、太平洋地域の考古学・民族学、動物考古学、ジオ考古学、考古学研究法などが挙げられます。また、考古・民族資料コレクションの形成をめぐる博物館学・博物館人類学的研究も行なっています。

大学院教育としては、担当教員による個別の論文指導および教員、学生全員が参加する演習授業による研究発表および討論が中心となっています。また、教員はそれぞれ専門のフィールドを持っていますので、各フィールドの調査に参加し、野外調査の実践および分析、報告の仕方を学ぶことができます。学会等における発表も積極的に行われています。

本分野では、長年の調査で蓄積された豊富な考古・民族資料が保管されていますので、それらをもとに研究を進めることも可能です。また、総合大学の研究科として、他学部、他専攻、諸研究所と共同でアッカド語、ヘブル語などの特殊言語や自然科学的手法、統計的解析手法を習得することもできます。最終的には、独自の研究を仕上げることで、研究に必要な技術を兼ね備えた総合的リサーチ・デザインを描ける研究者の養成を目指しています。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 安藤 広道 ANDO, Hiromichi	日本考古学・博物館学	「コクゾウムシは何を食べたか」(『魂の考古学－豆谷和之さん追悼論文編－』, 2016)、「久ヶ原遺跡と久ヶ原式土器」(『土器から見た大田区の弥生時代－久ヶ原遺跡発見、90年－』大田区立郷土博物館, 2017)、「文化財の可能性とは?－デジタル技術への期待－」(『慶應義塾大学DMC 紀要』第4号, 2017)、「慶應義塾日吉キャンパス一帯の戦争遺跡群」(『考古学研究』第64巻第1号, 考古学研究会, 2017)、「博物館と弥生時代集落研究」(『横浜に稲作がやってきた』横浜市歴史博物館, 2017)
教授 佐藤 孝雄 SATO, Takao	動物考古学 民族考古学	Animals and their Relation to Gods, Humans and Things in the Ancient Wold. (共著, Springer VS, 2019)、『人と動物の日本史1 動物の考古学』(共著, 吉川弘文館, 2008)、Rediscovery of the oldest dog burial remains in Japan. (Anthropological Science, vol.123, no.2, 2015)、Paleoenvironment of the Fore-Baikal region in the Karginian interstadial: Results of the interdisciplinary studies of the Bol'shoj Naryn site. (Quaternary International, vol.333, 2014)、「中近世アイヌのシカ送り儀礼」(『動物考古学』30, 2013)
教授 杉本 智俊 SUGIMOTO, David T.	西アジア考古学 聖書考古学	『図説 聖書考古学 旧約篇』(河出書房新社, 2008)、 <i>Female Figurines with a Disk from the Southern Levant and the Formation of Monotheism</i> (Keio University Press, 2008)、 <i>Transformation of a Goddess: Ishtar-Astarte-Aphrodite</i> (編著, Fribourg Academic Press and Vandenhoeck & Ruprecht, 2014)、『イスラエル国エン・ゲヴ遺跡 2009～2011年度調査報告』(共編, 慶應義塾大学西アジア考古学調査団, 2016)、「Stratigraphy of Tel 'En Gev, Israel: Correlation among Three Archaeological Missions,」(<i>Palestine Exploration Quarterly</i> 147-3, 2015)
教授 山口 徹 YAMAGUCHI, Toru	オセアニア島嶼世界のジオアーケオロジー 歴史人類学 博物館人類学	『アイランドスケープ・ヒストリーズ－島景観が架橋する歴史生態学と歴史人類学』(編著, 風響社, 2019)、Revisiting late Holocene sea-level change from the Gilbert Islands, Kiribati, west-central Pacific Ocean (共著, Quaternary Research, 2017)、「ウリ像をめぐる絡み合いの歴史人類学: ビスマルク群島ニューアイランド島の造形物に関する予察」(『史学』第85巻1・2・3号, 2015)、A review of coral studies of the Ryukyu Island Arc to reconstruct its long-term landscape history (In "Coral Reef Science" Springer, 2016)、Sedimentary facies and Holocene depositional processes of Laura Island, Majuro Atoll(共著, Geomorphology, vol.222, 2014)

国文学専攻 Japanese Literature

国文学分野

国文学専攻は、日本の文学・言語・文化を総合的且つ専門的に探求する場です。現在の専任教員スタッフは、附属研究所斯道文庫を含めて、文献学的学問を志す者が少なくありませんが、個々の教員の関心は一つの研究方法に止まってはいません。研究対象も、一人の教員が多くの分野・作者・作品・文学的語学的事象に関心を抱いています。

国文学の研究対象となる時代は古代から近現代まで、ジャンルは古典に属する和歌・物語から近現代の小説や出版文化に至るまで多種多様です。日本語学も古代語から現代語まで、理論的研究から実証的研究まで多岐に互ります。国文学専攻では、近年の傾向として、中古物語、中世和歌、絵巻物・絵入り本、近代ジェンダー・セクシュアリティ論、形態音韻・文字表記、日本漢文学といった研究が盛んです。

授業は、専任教員・斯道文庫教員・非常勤講師により、それぞれの専門分野を中心として、さまざまな形式で行われています。その多くは、少人数による演習形式を取っています。

一方、大学院の行事としては年2回、5月と11月に国文学研究会を開催しています。これは大学院在籍者・出身者による研究発表を中心に、若手研究者の研鑽の場としての役割を果たしています。また、文学系5専攻の運営する藝文学会でも、6月の大会では大学院生による研究発表が行われています。このほか、専任教員の主宰する研究会・読書会も頻繁に開かれています。大学院生の論文発表の場としては、国文学専攻の『三田国文』(年1回)、藝文学会の『藝文研究』(年2回)があります。

大学院修了後は、中学・高校の教員、大学の教員、公共機関の研究員などの専門職に就く者が圧倒的に多く、民間企業に就職する者は極めて少数です。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 石川 透 ISHIKAWA, Tooru	物語文学 説話文学	『慶應義塾図書館蔵 図解御伽草子』(慶應義塾大学出版会, 2003)、『奈良絵本・絵巻の生成』(三弥井書店, 2003)、『御伽草子 その世界』(勉誠出版, 2004)、『奈良絵本・絵巻の展開』(三弥井書店, 2009)、『入門 奈良絵本・絵巻』(思文閣出版, 2010)
教授 小川 剛生 OGAWA, Takeo	中世文学 和歌文学	『中世和歌史の研究－撰歌と歌人社会』(塙書房, 2017)、『二条良基研究』(笠間書院, 2005)、『兼好法師－徒然草に記されなかった真実』(中公新書, 中央公論新社, 2017)、『武士はなぜ歌を詠むか－鎌倉将軍から戦国大名まで』(角川選書, KADOKAWA, 2016)、足利義満―公武に君臨した室町将軍(中公新書, 中央公論新社, 2012)
教授 小平 麻衣子 ODAIRA, Maiko	近代日本文学	『女が女を演じる 文学・欲望・消費』(新曜社, 2008)、『夢みる教養 文系女性のための知的生き方史』(河出書房新社, 2016)、『21世紀日本文学ガイドブック7 田村俊子』(共著, 小平麻衣子・内藤千珠子, ひつじ書房, 2014)、『文芸雑誌『若草』 私たちは文芸を愛好している』(編著, 翰林書房, 2018)、『小説は、わかってくればおもしろい 文学研究の基本15講』(慶應義塾大学出版会, 2019)
教授 屋名池 誠 YANAIKE, Makoto	日本語学(国語学)	『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』(共編著, 大阪女子大学図書館, 1991)、『横書き登場：日本語表記の近代』(岩波新書, 2003)

英米文学専攻 English and American Literature

英文学・米文学・英語学及びそれぞれの関係領域を研究対象とする英米文学専攻では、西脇順三郎・厨川文夫の伝統に連なる中世英文学・英語学、大橋吉之輔の衣鉢を継ぐアメリカ文学を中心に、伝統を踏まえながら、現代の最も新しい分野、例えば書物史や現代批評理論なども視野に入れ、国際的な学問的貢献を目指しています。

修士課程2年間で基本的なディシプリンを積み、後期博士課程の3年間で博士論文を提出できるように、きめ細かな指導を行っています。担当者は教授8名(英文学4名、米文学2名、英語史・言語学2名)で、他に文学部、言語文化研究所、他学部所属の専任教員も授業を担当しています。多彩な設置科目はすべて選択科目で、学生の研究領域に合わせて指導教員と相談しながら履修するシステムが確立しています。必要に応じて学界の第一線で活躍する学者を国内外から講師として迎えます。日本英文学会や関連学会での研究発表、レフェリー制度をもつ学術雑誌への投稿、共同研究に基づく共著の執筆、外国への留学とそこでの学位取得に関するガイダンスの機会も数多くあります。さらに、博士号請求論文のレベルを高く維持するために、しばしば著名な外国人研究者を審査員に招いています。その審査を通過した論文は続々と公刊されており、慶應義塾での修士・博士論文が海外で出版されたり国際的な学術誌に採択されることは、分野を問わず珍しくありません。

また、後期博士課程在学中には日本学術振興会特別研究員としての採用や学位取得のための海外留学を支援し、課程修了後は非常勤講師として教歴を身に付けてもらうようにしています。ほとんどの場合、学位取得後は大学の常勤教員として就職します。

現在学内で進んでいる大学院生を交えた研究プロジェクトには、西洋中世写本や初期刊本を対象としたテキスト校訂や書物史研究のためのプロジェクト、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』を図書館所蔵の初版から徹底再検証する共同研究プロジェクトなどが含まれています。

学位請求論文の概要や専任教員の研究内容については、ホームページで紹介されています(<http://web.flet.keio.ac.jp/englit/>)。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 井出 新 IDE, Arata	初期近代イギリス文学・演劇	The Cambridge Guide to the Worlds of Shakespeare: Shakespeare's World, 1500-1660（共著, Cambridge University Press, 2016）、Corpus Christi College, Cambridge in 1577: Reading the Social Space in Sir Nicholas Bacon's College Plan(Transactions of Cambridge Bibliographical Society, XV, 2, 2015)、John Fletcher of Corpus Christi College: New Records of His Early Years (Early Theatre: A Journal Associated with the Records of Early English Drama 13.2, 2010)、The Jew of Malta and the Diabolic Power of Theatrics in the 1580s (Studies in English Literature 1500-1900 46.2, 2006)、『シェイクスピア大全』（共編著, 新潮社, 2003）
教授 井上 逸兵衛 INOUE, Ippei	英語学・社会言語学・談話分析	『ことばの生態系：コミュニケーションは何でできているか』（慶應義塾大学出版会, 2005）、『グローバル・コミュニケーションのための英語学概論』（慶應義塾大学出版会, 2015）、『社会言語学』（編著, 朝倉書店, 2017）、『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』（南雲堂, 1999）、『おもてなしの基礎英語』（NHK出版, 2019）
教授 大串 尚代 OGUSHI, Hisayo	アメリカ文学 女性文学	『ハイブリッド・ロマンス：アメリカ文学における捕囚と混淆の伝統』（松柏社, 2002）、『越境する女：19世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』（共著, 開文社出版, 2014）、"Little House in the Far East: The American Frontier Spirit and Japanese Girls' Comics" The Japanese Journal of American Studies 27（2016）、「ぼんやりと考える ― 吉本ばなな初期作品と少女マンガ的雰囲気について」（『ユイカ』2019）、『アメリカン・マインドの音声：文学・外部・身体』（小鳥遊書房, 2019）
教授 高橋 勇 TAKAHASHI, Isamu	近現代イギリス文学 ファンタジー文学	『中世主義を超えて ― イギリス中世の発明と受容』（松田隆美・原田範行・高橋勇 編著, 慶應義塾大学出版会, 2009）、ウィリアム・ブレイズ『書物の敵』（高橋勇 訳, 高宮利行 監修, 八坂書房, 2004）、『永遠の墓所 ― バイロン、シェリーのローマ』『ローマ ― 外国人芸術家たちの都』（佐藤直樹 編, 西洋近代の都市と芸術 1, 竹林舎, 2013）、『「書物狂」リチャード・ヒーパーとその蔵書』『名だたる蔵書家、隠れた蔵書家』（佐藤道生 編, 慶應義塾大学文学部, 2010）、『中世主義の系譜』『中世イギリス文学入門 ― 研究と文献案内』（高宮利行・松田隆美 編著, 雄松堂出版, 2008）
教授 巽 孝之 TATSUMI, Takayuki	アメリカ文学 現代批評理論	『ニュー・アメリカニズム：米文学思想史の物語学』（青土社, 1995）、『リンカーンの世紀：アメリカ大統領たちの文学思想史』（青土社, 2002／増補新版, 2013）、『アメリカ文学史：駆動する物語の時空間』（慶應義塾大学出版会, 2002）、 <i>Full Metal Apache: Transactions between Cyberpunk Japan and Avant-Pop America</i> (Duke University Press, 2006)、『モダニズムの惑星：英米文学思想史の修辞学』（岩波書店, 2013）
教授 原田 範行 HARADA, Noriyuki	近現代イギリス文学 比較文学 出版文化史 文学教育論	『「ガリヴァー旅行記」徹底注釈(注釈篇)』（共著, 岩波書店, 2013）、『風刺文学の白眉―「ガリバー旅行記」とその時代』（NHK出版, 2016）、『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』（共編著, 彩流社, 2016）、"Literature, London, and Lives of the English Poets," London and Literature, 1603-1901（共著, Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, 2017）、『近代小説の誕生と日本表象―サルマナザール、デフォー、スウィフト』（『十八世紀イギリス文学研究(第6号) ― 旅、ジェンダー、間テクスト性』所収, 日本ジョンソン協会編, 開拓社, 2018）
教授 堀田 隆一 HOTTA, Ryuichi	英語史 歴史言語学	"The Spread of the *s*-Plural in Early Middle English: Its Origin and Development." (Studies in English Literature, 79.2, 2002)、The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English (Hituzi Syobo, 2009)、『英語史で解きほぐす英語の誤解 ―― 納得して英語を学ぶために』（中央大学出版部, 2011）、"The Diatonic Stress Shift in Modern English."(Studies in Modern English 29 , 2013)、『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』（研究社, 2016）
教授 松田 隆美 MATSUDA, Takami	中世イギリス文学	Death and Purgatory in Middle English Didactic Poetry(Cambridge: D. S. Brewer, 1997)、『ヴィジュアル・リーディング：西洋中世におけるテキストとパラテキスト』（ありな書房, 2010）、Performance, Memory, and Oblivion in the Parson's Tale(The Chaucer Review, 51, 2016)、『チョーサー「カンタベリー物語」― ジャンルをめぐる冒険』（慶應義塾大学出版会, 2019）

独文学専攻 German Literature

独文学専攻が研究対象としているのは、ドイツ語圏の広義の文化です。時代は中世から現代まで、内容はドイツ語学理論、文学理論、文化理論、テキスト講読、口語・文語表現演習、中世文化研究などで、カリキュラムが構成されています。伝統的な研究法から最新の研究動向にいたるまで柔軟に目配りしつつ、優れた研究者を育成し、高度な専門知識を身に付けた人材を社会へ送り出すことを目指しています。

修士課程においては、徹底的にドイツ語と学問的思考法の習熟を目指します。文学系、文化系、言語学系、哲学・思想系の各テキストの読解と討論、学問的議論のための実践的な口語演習、修士論文作成のためのドイツ語による論文執筆訓練などを課しています。また、少人数のクラスでは教員と学生の間で密度の高い授業が行われます。後期博士課程においては、主に博士論文執筆のための授業が行われ、指導教授による指導と並行して自主研究を進めることとなります。独創的な発想や発見を根底に据えた、個性的な博士論文の作成が期待されます。博士学位の取得に関しては、本専攻の定めた規定に準じて審査が行われるので、別途資料を請求していただきます。

また、慶應義塾大学はドイツ学術交流会の一般考査による留学や、ベルリン自由大学、ボン大学、ドレースデン工科大学、ザールブリュッケン大学、デュッセルドルフ大学、ジューゲン大学などとの交換協定による留学生派遣を行っています。オーストリアやスイスの大学へ留学する学生もいます。独文学専攻とドイツ語圏主要大学との連携の強化により、絶好の留学環境にあると言えるでしょう。

以上のように、本専攻では多岐にわたる研究分野、母語話者によるドイツ語能力の陶冶、少人数制による個別指導の徹底、ドイツ語圏の諸大学との連携強化と留学制度の整備などを柱に活動しています。学生の進路は、公務員や一般企業への就職のほか、研究者となる者も数多くいます。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 川島 建太郎 KAWASHIMA, Kentaro	現代ドイツ文学・思想	『メディア論：現代ドイツにおける知のパラダイム・シフト』（共著, 御茶の水書房, 2007）、Autobiographie und Photographie nach 1900: Proust, Benjamin, Brinkmann, Barthes, Sebald. Bielefeld (transcript, 2011)、Christoph Ransmayrs Arbeit am Zeugen – Jean Améry und der Roman "Morbus Kitahara" (Beiträge zur österreichischen Literatur. Jg. 33, 2017)、Recht und Literatur in Benjamins Essay "Franz Kafka" (Neue Beiträge zur Germanistik. Bd.16, Heft 1. 2017)、Metamorphosis as Origin―Koji Yamamura's Short Animation "Franz Kafka's A Country Doctor"(Arts(MDPI) 8 (2) 4. 2019)
教授 糸川 麻里生 KUMEKAWA, Mario	近現代ドイツ文学・思想 文化史 スポーツ史	『サッカーのエスノグラフィ―へ』（共編著, 社会評論社, 2002）、『ゲーテ』（共著訳, 集英社, 2015）、『西洋教育思想史』（共著, 慶應義塾大学出版, 2016）、『Pazifikismus. Poetiken des stillen Ozeans』（共編著, Könighausen & Neumann, 2017）
教授 香田 芳樹 KODA, Yoshiki	中世ドイツ文学	マクデブルクのメヒティルト『神性の流れる光』（創文社, 1999）、『マイスター・エックハルト：生涯と著作』（創文社, 2011）、『真理を語る真理：マイスター・エックハルトの神秘的聖書解釈』（岩波書店『イスラーム哲学とキリスト教中世』, 2012）、『〈新しい人間〉の設計図：ドイツ文学・哲学から読む』（編著, 青灯社, 2015）、『魂深き人びと』（青灯社, 2017）
教授 識名 章喜 SHIKINA, Akiyoshi	近現代ドイツ文学・文化学	ザフランスキー『E.T.A. ホフマン』（翻訳, 法政大学出版局, 1994）、ヘルマント『理想郷としての第三帝国』（翻訳, 柏書房, 2002）、Statik und Dynamik in Kriegsschlachten bei Akira Kurosawa(*Akira Kurosawa und seine Zeit", Bielefeld, 2005)、『ドイツ語圏 SF 史概説』（岩波書店『文学』, 2007）、フケー『水の精（ウンディーネ）』（翻訳・解説, 光文社, 2016）
教授 田中 慎 TANAKA, Shin	ドイツ言語学 言語理論	Grammatische Funktionen aus Sicht der japanischen und deutschen Germanistik. (共編著, Helmut Buske, 2017)、Linguistische Sprachphilosophie. 日本独文学会研究叢書104(共編著, 日本独文学会, 2014)、『講座 ドイツ語学。第一巻。ドイツ語のシンタクス』（共著, ひつじ書房, 2014)、Deixis und Anaphorik: Referenzstrategien in Text, Satz und Wort(Linguistik – Impulse und Tendenzen 42, Walter de Gruyter, 2011)、The "passive" voice in Japanese and German: argument reduction and argument extension.(Linguistics 44-2, 共著, Mouton de Gruyter, 2006)
教授 平田 栄一郎 HIRATA, Eiichiro	演劇学・ドイツ演劇	『在と不在のパラドクス―一日欧の現代演劇論』（三元社, 2016）、『ドラマトゥック：舞台芸術を進化／深化させる者』（三元社, 2010）、Theater in Japan(共編著, Theater der Zeit, 2009)、『現代ドイツパフォーマンスアーツ』（共著, 三元社, 2006）、『ポストドラマ演劇』（共訳, 同学社, 2002）

仏文学専攻 French Literature

仏文学専攻の創設は、修士課程が1951(昭和26)年、博士課程が1953(昭和28)年ですから、すでに約70年の歴史と伝統を有することになります。現在では、フランス人の訪問教授を含め、常時8名前後の教員が授業と論文指導に当たっています。

担当教員の専門は、近世から現代、さらには言語学まで、幅広い分野にわたり、院生の多様な関心や要求に的確に対応できる態勢が整っています。特に修士課程のカリキュラムには独自の工夫があり、学生にはすべての設置科目を履修するように指導しています。その結果、指導教授以外の教員からも、満遍なく多彩な学問と知識を吸収することができます。専門研究の狭い世界に閉じこもることなく、常に開かれた視野でフランス文学やフランス語学に接する態度が培われること、それが本専攻の大きな特色の一つになっているのです。各分野の専門家による演習と研究指導は、少人数の院生を対象とするだけに密度が濃く、研究者として欠かせない知識と方法を学ぶことができることでしょう。

教員全員がフランス留学を何度も経験し、博士号を取得していることもあり、特に後期博士課程の院生には留学を積極的に勧めています。これまでに、エコール・ノルマル・シュペリール(高等師範学校)、パリ第3大学(ソルボンヌ・ヌーヴェル)、ニース大学、トゥールーズ大学などとの交換留学生や、フランス政府給費留学生を多数送り出しています。また、このような本格的な研究活動に必要なフランス語の運用能力を育成するために、フランス人教員による徹底した口頭発表の訓練や作文指導も行われています。

毎年一回、秋頃に研究発表会が開催され、修士課程の学生は修士論文の構想を述べ、博士課程の学生は研究の進捗状況を報告することが慣例となっています。また、研究成果を発表する場として、査読付きの論文集を年一回刊行しています。その編集作業は博士課程在学中の学生が担当し、さまざまな業務を体験できるよい機会となっています。

仏文学専攻の修了生には、本塾をはじめさまざまな大学でフランス語・フランス文学を担当する教員になっている者が多く、加えて、文壇や詩壇などで、永井荷風以来のいわゆる三田派の伝統に連なる執筆活動を展開する小説家、詩人、批評家も少なくありません。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 市川 崇 ICHIKAWA, Takashi	現代フランス文学及び思想	アラン・バディウ、ジュディス・パトラー、ジャック・ランシエール、ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン、サドリ・キアリ著『人民とはなにか』（翻訳、以文社、2015）、De "La fin du 6 février" à la naissance de Thomas l'obscur, Défi de lecture: Thomas l'obscur de Maurice Blanchot（共著、Presses Universitaires de Paris Nanterre, 2017）、La Politique du mythe : Débat virtuel entre Bataille et Drieu(Cahiers Bataille, no 3, Éditions les Cahiers, 2016)、『時間、自己触発、固有性：超越論的感性論をめぐるジャン＝リュック・ナンシーとジャック・デリダの討論』（『人文学報フランス文学』、首都大学東京人文学研究科、2017）、Généalogie de l'affirmation de la pensée negative(A. Milon(ed.), Leçon d'économie générale : l'expérience-limite chez Bataille-Blanchot-Klossowski, Presses Universitaires de Paris Nanterre, 2018)
教授 荻野 安奈 OGINO, Anna	フランス文学 (16世紀)	Les éloges paradoxaux dans Le tiers et Le quart livres de Rabelais : enquête sur le comique et le cosmique à la Renaissance(France Toshō, 1989)、『ラプレー出帆』(岩波書店、1994)、『ラプレーとノストラダムス』(共著、『ノストラダムスとルネサンス』岩波書店、2000)、『ラプレーで元気になる』(みずす書房、2005)、ノエル・デュ・ファイユ『田園閑談』(翻訳、『フランス・ルネサンス文学集2』白水社、2016)
教授 小倉 孝誠 OGURA, Kosei	近代フランスの文学と文化史	『身体の文化史』(中央公論新社、2006)、『恋するフランス文学』(慶應義塾大学出版会、2012)、『革命と反動の図像学』(白水社、2014)、『写真家ナダール』(中央公論新社、2016)、『ゾラと近代フランス 歴史から物語へ』(白水社、2017)
教授 片木 智年 KATAGI, Tomotoshi	おとぎ話論 17世紀フランス文学・演劇	『ペロ－童話のヒロインたち』(せりか書房、1996)、『星の王子さま学』(慶應義塾大学出版会、2005)、『少女が知ってはいけないこと：神話とおとぎ話に描かれた(女性)の歴史』(PHP研究所、2008)、“Des versions Perrault-Lhéritier à quelques caractéristiques de Dame Holle”(Dominique P.-L. (dir), L'écho des contes, PUR, 2019) “Éco-animisme dans les <i>fantasy anime</i> de Hayao Miyazaki — <i>Princesse Mononoké, Le Voyage de Chihiro, Ponyo sur la falaise</i> ”(Fantasy art and studies 5, Têtes imaginaires, 2018)
教授 喜田 浩平 KIDA, Kohei	フランス語学	<i>Cognition et émotion dans le langage</i> (共同編著、慶應義塾大学出版会、2006)、『ブチ・ロワイヤル和仏辞典第3版』(執筆協力、旺文社、2010)、Prédicat argumentatif et concept <i>ad hoc</i> (<i>Travaux de linguistique</i> 70, 2015)、L'anaphore conceptuelle au prisme de la Théorie des Blocs Sémantiques (<i>Discours</i> 19, 2016)、L'argumentativité de la métaphore dans une sémantique argumentative(Marc Bonhomme et al. (dir), <i>Métaphore et argumentation</i> , Editions Academia, 2017)
教授 築山 和也 TSUKIYAMA, Kazuya	19世紀フランス文学	L'imagination chez Baudelaire, mouvement et construction (RHLF, 2019, n°2)、Le naturel dans la théâtralité baudelairienne (Romantisme, n°179, 2018)、Le poème en prose chez Huysmans : contre la bourgeoisie(La Licorne, n°90, Presses Universitaires de Rennes, 2010)、アラン・コルバン『知識欲の誕生』(翻訳、藤原書店、2014)、ミシェル・ヴィノック『知識人の時代 パレス／ジッド／サルトル』(共訳、紀伊國屋書店、2007)
教授 岑村 傑 MINEMURA, Suguru	近現代フランス文学	『フランス現代作家と絵画』(共編著、水声社、2009)、ジュネ『公然たる敵』(共訳、月曜社、2011)、 <i>Dictionnaire Jean Genet</i> (共著、Honoré Champion, 2014)、『ミシェル・ヴィユシャンジュを読むジュネ』(『藝文研究』第107号、2014／第108号、2015)、タハール・ベン・ジェルーン『嘘つきジュネ』(単訳、インスクリプト、2018)
教授 宮林 寛 MIYABAYASHI, Kan	近代フランス文学	Mallarmé(共著、Editions InterUniversitaires、1998)、Mallarmé ou l'obscurité lumineuse(共著、Hermann、1998)、シャルル・ベギー『クリオ 歴史と異教的魂の対話』(翻訳、河出書房新社、2019)、シル・ドゥルーズ『記号と事件』(翻訳、河出文庫、2007)、マリ・グヴェルス『フランドルの四季暦』(翻訳、河出書房新社、2015)

図書館・情報学専攻 Library and Information Science

図書館・情報学分野
1967(昭和42)年に設置された図書館・情報学専攻は、情報システム、情報メディア、情報検索を研究の三つの柱としています。
情報システムは、情報を扱う組織全体を含めた広い概念で、方法的対象として図書館を扱います。図書館は資料を収集、組織化、保存、提供する機能を持ち、書誌コントロールや情報サービスなどの観点からも捉えることができます。また、図書館とその設置機関との関係をめぐる法のおよび経営的な問題、提供されるサービスと利用者コミュニティとの関係をめぐる社会的、心理的問題、そして、図書館が社会にもたらす経済的、文化的、教育的効果などが研究テーマになります。
情報メディアは、欧米の情報学の中で発展した学術コミュニケーション研究と計量書誌学に加え、学術情報システムの問題を含めた独自の研究領域を持っています。メディアではなく人間の認知に焦点を当てる情報探索行動研究も長年の研究実績があります。最近は、デジタルメディアの特性やそれらの利用者に関する研究、組織やウェブにおける人々の行動の理解、情報メディアを含めた知識の共有・創造・蓄積・サービスのデザインを考える研究も行われています。
情報検索は、情報検索理論から情報組織化、データベース、情報検索システムまで、検索技術に特化した工学系のアプローチとは異なる全体的な観点から研究課題を扱います。最近では特に、サーチエンジンの高度化、検索実験における評価方法、大量の文書の自動分類などの研究課題で成果をあげています。また、メタデータ、統制語彙、分類法等とそれらの組み合わせからなる情報組織化／情報資源組織化の高度化にも研究実績があります。
図書館や情報メディアの隣接領域である書誌学や出版、メディア論やメディア研究などの課題に取り組むことも可能です。
修士課程の学生は例年4、5人と少人数です。それだけに指導教授だけでなく、専攻の他の教員、卒業生も含め和やかな雰囲気の研究をしていくことが可能です。修了後は、国立国会図書館や大学図書館などへの就職、情報通信関連企業への就職、後期博士課程への進学が多数を占めます。
後期博士課程では、学位の取得を目的とした論文作成指導が中心となります。査読のある学会誌に論文を発表した後、学位論文検討会で発表を積み重ねることを通じて、学位論文を完成させるように指導しています。
また、2006(平成18)年4月からは後期博士課程の科目を夜間にも開講しています。図書館や情報サービス関連企業にお勤めの方が夜間の科目のみを履修し、後期博士課程の単位を修得することも可能です。博士課程修了後は、大学や研究組織の教員、研究職を目指す方が大部分です。

情報資源管理分野
社会の環境変化に伴い、図書館業務や情報サービスに従事する専門職のリカレント教育の必要性が高まっています。そこで2004(平成16)年、図書館・情報学専攻における教育の実績に基づき、社会的ニーズに応えるために情報資源管理分野を設けました。大学卒業後3年以上、図書館等における実務経験あるいは司書資格を有する方を対象としています。2015(平成27)年度文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定されました。その結果、厚生労働省の教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の支給対象ともなります。
本分野は、最新の情報技術や経営管理を中心に、資料組織や情報検索、学術情報流通、レファレンスサービスなどについての知識や技能を修得し、問題解決能力の向上を図ることを目的としています。学術論文の書き方、調査分析方法に関するスキル修得を目指す科目も開講しています。
現職者向けに平日夜間(月曜日と木曜日)と土曜日午後に開講しています。夏休み集中で実施する科目もあります。例年15人から20人ほどの学生が在籍しています。仕事をしながら修士の学位を目指すため、結束力もあり、卒業後も交流が盛んです。

教員紹介

担当者	専門分野	主要著作
教授 池谷 のぞみ IKEYA, Nozomi	エスノメソドロジー 情報行動 知識の社会学 サービスデザイン	社会課題とエスノメソドロジー研究との関わり：救急医療におけるワークの研究を中心に(年報社会学論集、2019, no.32)、A reading of Sacks' Lawyer's Work as an invitation to ethnomethodological studies of work(Ethnographic Studies, 2019, No.16)、Social Distribution Of Knowledge In Action: The Practical Management Of Classification(J.Strassheim, H.Nasu (Eds.), Relevance and Irrelevance: Theories, Factors and Challenges. De Gruyter, 2018)、『ワークとしての情報行動：ミーティングにおける情報の実践的マネジメント』(『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』、ハーベスト社、2017)、『図書館は市民と本・情報をむすぶ』(共編著、勁草書房、2015)
教授 岸田 和明 KISHIDA, Kazuaki	情報検索	Technical issues of cross-language information retrieval: a review (Information Processing & Management, vol.41, no.3, 2005)、High-speed rough clustering for very large document collection (Journal of the American Society for Information Science and Technology, vol.61, no.6, 2010)、Double-pass clustering technique for multilingual document collections(Journal of Information Science, vol.37, no.3, 2011)、『図書館情報学における統計的方法』(樹村房、2015)、Uncomplicated procedure for thesaurus mapping: Use of stemming, edit distance and vector matching (IPJS SIG Technical Report. vol.2018-IFAT-131, no.1, 2018)
教授 倉田 敬子 KURATA, Keiko	学術コミュニケーション 図書館・情報学	『学術情報流通とオープンアクセス』(勁草書房、2007)、『電子ジャーナルとオープンアクセス環境下における日本の医学研究者の論文利用および入手行動の特徴』(共著、Library and Information Science, no.61, 2009)、Remarkable growth of open access in the biomedical field: analysis of PubMed articles from 2006 to 2010(co-authored, PLOS ONE, vol.8, no.5, 2013)、Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing Among Researchers in Natural Science.(co-authored, Sage Open, 2017, 7 (3))、Print or digital? Reading behavior and preferences in Japan.(co-authored, Journal of the Association for Information Science and Technology, vol.68, no.4, 2017)
教授 谷口 祥一 TANIGUCHI, Shoichi	情報組織化 情報資源組織化	A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules(ひつじ書房、2007)、『メタデータの「現在」：情報組織化の新たな展開』(勉誠出版、2010)、『知識資源のメタデータ 第2版』(共著、勁草書房、2016)、Is BIBFRAME 2.0 a suitable schema for exchanging and sharing diverse descriptive metadata about bibliographic resources? (Cataloging & Classification Quarterly, Vol.56, No.1, 2018)、Mapping and Merging of IFLA Library Reference Model and BIBFRAME 2.0.(Cataloging & Classification Quarterly, Vol.56, No.5-6, 2018)

■ コースの新設

修士課程「西洋中世研究コース」

文学研究科では、2021年度より、修士課程に「西洋中世研究コース」を設置する予定です。このコースは、西洋中世(古代末期から16世紀までのヨーロッパおよび隣接するイスラーム文化圏)を対象として領域横断的なテーマで研究をすすめたい大学院生のために、学生が所属する専攻の枠をこえて、各自の研究テーマにもっともふさわしい研究・指導環境を提供しようとするものです。

西洋中世の思想、美術、歴史、文学を所属する専攻内で専門的に研究することは言うまでもなく可能ですが、西洋中世研究はもともと領域横断的な性格を持った分野です。大学院生が構想する研究テーマが複数の領域をまたがることは少なくないでしょう。そうした関心の広がりにもふさわしい柔軟な指導体制のもとで、独創的な研究を後押しすることがコースの目的です。各自の研究テーマに応じて複数の教員が指導することを原則として、所属専攻の指導教授にくわえて他分野の専任教員が副指導教員のようなかたちで、修士論文の執筆を指導します。また、領域横断的な演習科目の履修を通じて、西洋中世を研究する他の学生とも交流しつつ、独自のテーマを深化させるための方法論や専門的知識を身につけることができます。本研究科の修士課程を修了し、かつコースの所定の修了要件を満たした場合、修士学位とともに「コース修了証」が授与されます。

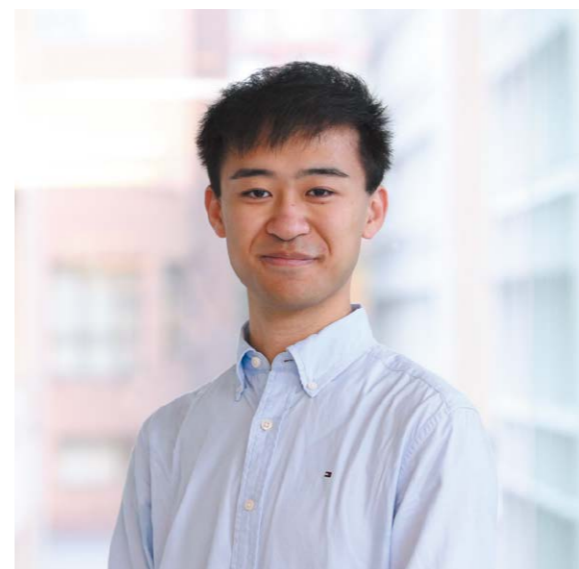
コースへの参加は、大学院入学後に所属専攻の指導教授および関連するコース担当教員と個別に相談して決めます。コースに特化した入学試験はありません。入学後ガイダンスを開催しますから、関心のある学生は参加してください。

西洋中世研究コースへの登録は、コースの対象となる専攻に2年以上在学する予定の修士課程の学生を対象としています。2021年度からコースの対象となる予定の専攻は哲学・倫理学、美学美術史、史学(西洋史)、英米文学、独文学です。コース対象の専攻は、教員側の事情により変化する可能性があるため、年度毎に更新されます。

2021年度に西洋中世研究コースで、論文指導や授業を担当する予定の教員は以下の通りです。(詳しい紹介や教員の連絡先は文学部・文学研究科の公式ウェブサイトをご覧ください。)

上枝 美典	(哲学・倫理学専攻哲学分野 教授)・・・専門：西洋中世哲学
山内 志朗	(哲学・倫理学専攻倫理学分野 教授)・・・専門：西洋中世・近世思想、倫理学と形而上学
遠山 公一	(美学美術史学専攻 教授)・・・専門：西洋美術史
藤谷 道夫	(美学美術史学専攻 教授)・・・専門：イタリア語・イタリア文学、西洋古典学、比較文学
神崎 忠昭	(史学専攻西洋史学分野 教授)・・・専門：西洋中世史
野々瀬浩司	(史学専攻西洋史学分野 教授)・・・専門：スイス宗教改革史、農村社会史
赤江 雄一	(英米文学専攻 准教授)・・・専門：西洋中世史
井出 新	(英米文学専攻 教授)・・・専門：初期近代イギリス文学・演劇
徳永 聡子	(英米文学専攻 准教授)・・・専門：中世イギリス文学、書物史
堀田 隆一	(英米文学専攻 教授)・・・専門：英語史、歴史言語学
松田 隆美	(英米文学専攻 教授)・・・専門：中世イギリス文学
香田 芳樹	(独文学専攻 教授)・・・専門：中世ドイツ文学

■ 大学院生の研究



文学研究科 美学美術史学専攻 修士課程2年(2020年度現在)
植村 遼平

研究を深化させる理想的な環境

私は現在、美学美術史学専攻の中でも音楽学の方で研究しており、特に20世紀フランスの作曲家オリヴィエ・メシアン作品の研究に取り組んでいます。学部時代から、音楽を歴史的・理論的に理解しようとするこの学問に魅力を感じ、様々な講義や研究会を通して、基礎的な概念や方法論を学んできました。それにつれ、次第に明らかになった研究課題を、より専門的に掘り下げたいと思うようになり、大学院への進学を決めました。

大学院の授業では、文献講読や学生の研究発表が少数で行われ、活発な議論がなされています。また週に1回、研究科の先生方と学生全員が集まる場が設けられており、他分野の研究発表を通して、自らの研究を見直す良い機会となっています。様々な方法論や着眼点に触れることは、より柔軟かつ論理的に課題と向き合うには意義深いことではないでしょうか。そして慶應では、音楽学関連の図書・楽譜等の蔵書が極めて充実しており、研究に理想的な環境が整っていると実感します。

このように手厚いサポートが受けられる環境があつて、私は音楽学という、学術研究として奥行きのある領域に挑むことができている。常に多角的な視点を提供してくれること、ここに総合大学で音楽を研究するメリットがあると確信しています。



文学研究科 中国文学専攻 後期博士課程2年(2020年度現在)
石川 就彦

教員と院生が築き上げる研鑽の場

学部・修士課程を通して中国文学専攻で中国古典文学を中心に学んできました。特に明代白話小説『水滸伝』を主な研究対象とし、版本間のテキストクリティークを通じて表現技法の分析を行っています。現在はその一端として「泣き」「笑い」「怒り」といった感情表現に焦点を当て、文学批評の精神及び技法の発展の研究を進めています。

研究資料や専門書、先行研究の入手は研究生活の生命線と言えます。例えば私のような研究手法では、多くの貴重な版本に目を通す必要があります。その点では、慶應の図書館及び各研究室には各専門図書・データベースが非常に充実しており、どの分野を研究するにも申し分の無い環境と言えます。

大学院の授業の多くは少数で行われ、穏やかな雰囲気でありながら毎度熱い議論が展開されています。授業外でも、教員と院生あるいは院生同士の交流は研究分野や所属専攻の垣根を越えて頻繁に行われ、先生方や先輩方の手厚く熱心なご指導の下、自身の研究を進めていくことができます。また、文学研究科文学系5専攻で構成される「藝文学会」が毎年開催され、他専攻の教員や院生と交流する機会にも恵まれています。

博士課程も2年目となった今、自分ひとりで研究を進めるのは容易ではないと実感しています。様々な人との交流を通じて自らを研鑽し、より専門的かつ多角的な視点から研究を行うことを目指す方にとっては、慶應の文学研究科は理想的な場ではないでしょうか。

教員の研究



文学研究科 独文学専攻
平田 栄一朗 教授

総合学問としての演劇学

「世界はこれすべて舞台なり」というシェイクスピアの言に象徴されるように、私たちは日々の生活において俳優・演出家・観客のように振る舞っています。望む望まざるにかかわらず、私たちは演劇的な世界に生きています。

このような考え方に違和感をいだく向きもあるでしょう。そして次のように反論したくなるかもしれません。私たちは普段、俳優のように振る舞っていないし、観客として何かを見ているわけでもない。私たちは「自然に」「自分らしく」暮らしているだけである、と。近年の演劇学は、この自然・自分らしさと思えるものに虚構の要素が巧みに入り込み、私たちが知らずして演劇的な世界に巻き込む状況を多角度から探究することで、私たちの世界観を問い直しています。

「見る」行為を例にして、この状況について説明してみましょう。私たちが何かを見るとき、その視線はすでに特定のイメージや枠組に条件づけられています。何かを見ようとする行為は、自分の意思に先んずる何かに規定されるのです。この何かは、ヨーロッパの場合、劇場やメディア技術の発展とその効果にあると言われてきました。近代に入りヨーロッパ市民が定期的に観劇を行うようになると、遠近法と枠組を踏まえた奥行きのある舞台が多くの劇場に据えられました。この舞台設定は、観客が舞台上の人物を自分の座席から十分に観察することを可能にしましたが、同時にそれは、個々人が世界を自分本位で見て考えるという個人の主体性を促進したと指摘されています。近代人の自発的な観察力や考察は、枠組や遠近法の効果に基づく演劇的な装置に導かれるようにして発達していきました。

このような作用は現代のメディア社会にも見受けられます。もし私たちがインターネットで多くの情報を得ようとするほど、自分の世界観がかえって狭くなる傾向があるとしたら、それは、あらかじめコンピューターやスマートフォンの枠組に取まる映像や情報を私たちが知覚するからかもしれません。この枠組は演劇的な装置の現代版と言えるでしょう。ネット社会にはびこる偏見や誤謬は、私たちが情報を「見て」「解釈する」観劇行為と潜在的に関連していると言えます。

こうした要因を考察するのに演劇(学)は有益です。優れた舞台作品には、私たちが普段、何かを見て考える行為に潜む演劇的な作用に気づかせる契機がちりばめられています。演劇は虚構世界を観客に示すことで、日常に潜む演劇的なものの可能性や問題を多角度から反映し、それらを観客に経験・省察するように促します。大学院の授業では、こうした舞台作品の考察と、そこから得られる独自の見地を模索しています。この作業には演劇学だけでなく、哲学・歴史学・芸術学・メディア学・政治学などの新しい成果が不可欠です。世界が舞台であるならば、演劇学は多くの学問分野から成る総合学問と言えるでしょう。



文学研究科 図書館・情報学専攻
池谷 のぞみ 教授

知識共同体の構築に向けて

私は、人々の営みや、それに関わる人々の視点から理解することにこだわる、エスノメソドロジーという学際的なアプローチをとって研究をしています。「エスノ」は「人々の」という意味で、エスノメソドロジーは「人々の方法」となります。研究者による「理解のための精緻な枠組み」を用意して人々の営みを理解することが社会科学における通常の研究方針です。それに対して、エスノメソドロジーは、人々が実際に使っている方法そのものを理解することを通してリアリティーを理解するという方針をとります。対象は同時代の人々の活動であることがほとんどですが、書かれたテキストを人々による営みとして時代を遡って理解対象とすることもあります。私は、このような方針に基づくことで、人々が想起もしくは共有する知識を実践から切り離さずに理解し、組織や集団における知識の共有や創造、継承などの問題を考察することに心がかります。

文部科学省の補助を受けた研究「市民の健康支援のための価値報酬型サービスを支える知識共同体の構築」では、1)患者・家族を含む市民がどのような文脈において医療や健康に関する情報をアクセスするに至り、意思決定に至るのか(情報実践の理解)、2)医療機関の相談支援センターや患者図書室において、市民の健康情報をアクセスする機会をスタッフがどのように提供しようとしているのか(専門機関サービス実践の理解)、3)公共図書館や患者図書室は健康や医療についてどのようなサービスを提供しようとしているのか(サービス実践の理解)の3点を、現地に訪問し理解を深めています。こうした理解を通して、市民が必要なときに健康・医療に関する情報をさまざまな形で得られるような環境を作って健康支援をしていくには、何が必要なのかを探っています。

こうして得た理解を踏まえ、公共図書館、がん相談支援センター、患者図書室がさらに市民の健康支援の拠点となっていくために、連携や知識共有を容易にしていくような仕組みを創るには何が必要なのかを考えています。公共図書館や患者図書室、国立がん研究センター、がん相談支援センター、図書館情報学の研究者と一緒に、価値報酬型サービスを実践のレベルで支えるような「知識共同体の構築」のあり方を考えています。

もともと私と医療との関わりは、20年前に高度救急救命センターでのフィールドワークに遡ります。図書館のレファレンスサービスや分類作業、ビジネス支援サービスも理解の対象としてきました。一時は米国のパロアルト研究所に身を置き、情報システムのデザインに人の行為を理解するためのフィールドワークの活かし方を計算機科学者やシステムエンジニアと考えていた経験もあります。

一見すると、私の研究はきわめて無節操に見えると思いますが、通底するテーマは、人々の実践の理解を踏まえながら、知識の共有や継承、情報サービスのデザインを考えることなのです。

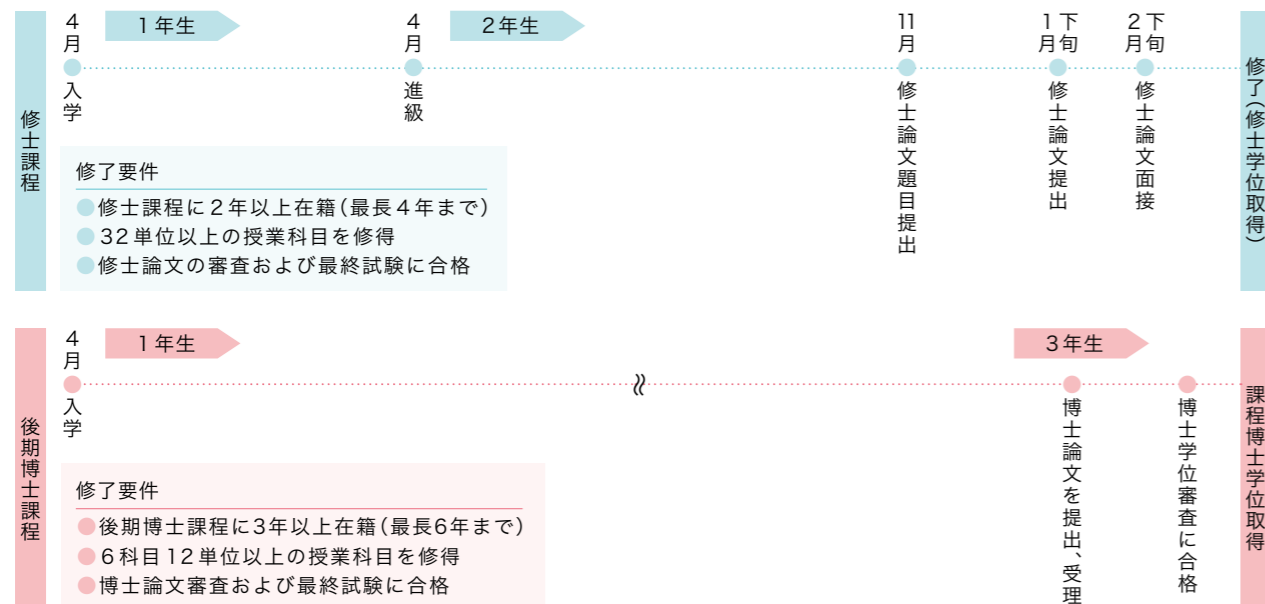
科学研究費(学術振興会)の採択課題

氏名	採択年度	研究種目	研究課題名
倉田 敬子	2019	基盤研究(B)	オープンサイエンス時代の学術コミュニケーション変容に関する総合的研究
佐藤 道生	2019	基盤研究(C)	平安後期日本漢文学の総合的研究
岡田 光弘	2019	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	論理的「不一致」の解明
根本 彰	2019	基盤研究(C)	「知の理論(TOK)」に基づく学校図書館モデル構築の研究
エアトル ヴォルフガング	2018	基盤研究(C)	The hidden connection between Kant and scholasticism
望月 典子	2018	基盤研究(C)	ニコラ・ブッサンの視覚論 - 近世フランスにおける「タブロー」の成立と展開
石川 透	2018	基盤研究(C)	丹緑本の基礎的研究
屋名池 誠	2018	基盤研究(C)	本土諸方言・時代語の動詞・形容詞の活用・アクセント活用体系の実証的・理論的研究
後藤 文子	2018	挑戦的研究(萌芽)	クロス・ディシプリナリー学としての「庭園芸術学」の構築
山口 徹	2017	基盤研究(A)	オセアニア環境社会を支えるタロイモ栽培の天水田景観と気象災害のジオアーケオロジー
岡田 光弘	2017	基盤研究(B)	「証明の哲学」の視点に立つ「論理と数学の哲学」の新展開
平田 栄一朗	2017	基盤研究(B)	越境文化演劇研究——異他の視点からの演劇文化論
中島 圭一	2017	基盤研究(B)	日本中世貨幣史の再構築—学際的な中世貨幣学の確立に向けて
井奥 成彦	2017	基盤研究(B)	醸造業による農村工業化と和食文化の形成に関する地域比較研究
谷口 祥一	2017	基盤研究(C)	エージェントと著作等に対する典拠コントロール支援用統合型典拠データベースの構築
大串 尚代	2017	基盤研究(C)	日本の少女文化におけるアメリカ表象の歴史的意義
小川 剛生	2017	基盤研究(C)	郷土史料を活用した戦国大名文芸の注釈と研究—上杉氏・武田氏を中心に
小平 麻衣子	2017	基盤研究(C)	文芸雑誌『文藝首都』における新人育成と文壇ネットワーク形成に関する総合的研究
井出 新	2017	基盤研究(C)	枢密院顧問官フランシス・ウォルシンガムと詩人庇護に関する歴史的研究
野々瀬 浩司	2017	基盤研究(C)	宗教改革期スイスにおける都市共同体の構造に関する社会史的研究
佐藤 孝雄	2016	基盤研究(B)	本州北部更新世人類集団の資源利用に関する学際的調査・研究
松田 隆美	2016	基盤研究(C)	中英語宗教学における予定説の解釈と受容に関する研究
小倉 孝誠	2016	基盤研究(C)	19世紀フランス文学における身体、感覚、病理の表象
安藤 広道	2016	基盤研究(C)	軍事遺跡の教育・学習資源化をめぐる実践的研究
池谷 のぞみ	2015	基盤研究(B)	市民の健康支援のための価値報酬型サービスを支える知識共同体の構築
巽 孝之	2015	基盤研究(C)	モダニズム文学形成期の英米における慶應義塾の介在と役割

(2019年12月現在、過去5年間)

学位

学位取得のプロセス



学位授与数 [2020年4月1日現在 ()内は女子の内数]

修士		哲学	美学	史学	文学	日本語教育学	図書館・情報学
年度	学位						
2017		7(3)	8(5)	11(3)	21(12)	3(3)	9(5)
2018		9(3)	14(11)	14(7)	19(9)	4(3)	7(4)
2019		6(1)	8(6)	6(2)	20(14)	3(0)	8(4)

博士		哲学	美学	史学	文学	図書館・情報学
年度	学位					
2017		1(0)	0(0)	4(2)	2(1)	0(0)
2018		3(2)	0(0)	2(1)	4(2)	0(0)
2019		2(0)	1(1)	1(0)	6(3)	3(2)

修士論文・博士論文のテーマ (最近のものより抜粋)

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Nietzsche's Ideals of the Affirmation of Life and <i>Amor Fati</i> in the Context of Naturalism ● 日本の「観光型美術館」における中国人観光客を対象とした来館動機の把握
——上野・六本木・箱根エリアの美術館を事例として—— ● ハンブルクにおける「アーリア化」1933-1938年
——ユダヤ人経営をめぐる社会的状況—— ● 下末吉地東端部日吉地区における歴史生態学的研究
——縄文時代前期以降の堆積環境・植生変遷を中心に—— ● 外来語「アップ」の意味と用法 ● 徐應昶主編時期における『児童世界』
——日本の影響を中心として—— ● マインホルト作『修道院の魔女』とシドニア伝説 ● 芸術家の苦悩と超克
——ジョルジュ・ペレック『人生 使用法』をめぐる—— ● 大学図書館における学生協働の実態とその可能性 | <p>博士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自由行為の哲学
——初期ベルクソン哲学における時間と空間—— ● フィリッポ・リッピ スポレート大聖堂内陣壁画
——画像プログラムとパトロネージ—— ● シンガポール華人社会におけるナショナリズムの形成過程
1896-1909年 ● 泉鏡花・物語ることへの意志—画像と信仰を視座として— ● 虚無の力
——ハーマン・メルヴィルの描くアメリカ的理想の破壊と再創造—— ● 子ども文庫が生まれる理由、続ける力、支える仕組み |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

進路・留学

文学研究科修士課程修了生の進路

文学研究科における、過去5年間の修士課程修了者は約360名、後期博士課程の単位取得退学者は約100名にのぼります。それぞれが自分の専門的知識とスキルを活かして様々な道に進んでいます。

例年、修士課程修了者のおよそ3分の1が、続けて後期博士課程へ進学しています。修士課程を修了して社会へ出た人の進路としては、中学校・高等学校の教員(社会、国語、英語など)、博物館・美術館の学芸員、出版社・新聞社・放送局などマスコミへの就職が一般的です。また、語学や情報処理の専門的知識を活かし、一般企業へ就職する人もいます。

後期博士課程修了者・単位取得退学者のうち、ほぼ半数が国内の大学で専任の研究職についていますが、なかには海外の大学の専任者として教鞭を執っている人もいます。大学などの非常勤講師や研究員となったケースも含めると、ほとんどが研究を続けています。また、博物館・美術館の学芸員、高等学校の教員、新聞社や出版社に就職した人も数多くいます。

また、大学院文学研究科は留学にも力を入れています。慶應義塾大学には、130をこえる海外の大学・大学院と交換留学制度があります。また、文学研究科独自の留学制度として、イギリスのロンドン大学キングズ・コレッジへの短期留学プログラムがあります。多くの学生が、これらの制度を利用して、また、世界各国の国費留学制度を利用するなどして、在学中や修了後に留学しています。

文学研究科修士課程修了者の主な就職先 (2016年度～2018年度修了者)

愛知県、アクセンチュア株式会社、上尾市、株式会社朝日新聞社、学校法人麻布学園、株式会社イオン銀行、株式会社イトグチ、茨城県、いわき市株式会社ヴァリューズ、株式会社ヴィアックス、Vinculum株式会社、エスト・ウエストオークションズ株式会社、大垣市、大阪瓦斯株式会社、学校法人大妻学院、小田急電鉄株式会社、学校法人開智学園、外務省、株式会社カケハシスカイソリューションズ、神奈川県、カルソニックカンセイ株式会社、株式会社紀伊國屋書店、株式会社ギャラクシイ、京セラコミュニケーションシステム株式会社、慶應義塾株式会社講談社、学校法人国際基督教大学、公益財団法人五島美術館、株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ、埼玉県、学校法人実践女子学園、学校法人頌栄女子学院、株式会社小学館、新日鉄住金エンジニアリング株式会社、学校法人成城学園、学校法人専修大学、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、ソーバル株式会社、第一生命保険株式会社、千葉県、公益財団法人千葉市教育振興財団、株式会社中央公論新社、学校法人調布学園、デル株式会社、テレコムスタッフ株式会社、デンカ株式会社、学校法人桐蔭学園、学校法人東海大学、東京瓦斯株式会社、学校法人東京女学館、東京都、株式会社東京ドーム、長野市、国立大学法人新潟大学、公益財団法人日産厚生会、平塚市、株式会社文藝春秋、株式会社ベネッセスタイルケア、学校法人法政大学、株式会社毎日教育総合研究所、株式会社松屋、三井不動産リアルティ株式会社、三菱総研DCS株式会社、光村図書出版株式会社、株式会社南日本新聞社、学校法人明治大学、学校法人明星学苑、目黒区、UBS証券株式会社、株式会社ラーニングエージェンシー、学校法人立教学院、株式会社ワークスアプリケーションズ

文学研究科 留学先国別一覧 (2007年4月入学者から2019年4月入学者まで)

国・地域別	大学名	国・地域別	大学名
中国	廈門大学、華中師範大学、西北農林科技大学、浙江大学、復旦大学、香港中文大学、南京師範大学、山東大学	ドイツ	ジーゲン大学、デュースブルク大学、ハレ大学、ヴェルツブルク大学、ハノーバー大学、ボン大学、ギーゼン大学、ベルリン自由大学、ライプツィヒ大学、ベルリン・フンボルト大学
大韓民国	ソウル国立大学、延世大学	フランス	高等師範学校、トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学、パリ第1大学、パリ第3大学、パリ第4大学、パリ第9大学、パリ第10大学、パリ・カトリック学院、社会科学高等研究院、ポルドー・モンテーニュ大学、ジャン・ムラン・リヨン第3大学
タイ	チュラロンコン大学	ベルギー	ゲント大学
イラン	テヘラン大学	ノルウェー	ベルゲン大学
トルコ	ボアズィチ大学、イスタンブール5月29日大学	スウェーデン	リンショーピング大学
エジプト	カイロ大学	アメリカ合衆国	ウェスタンミシガン大学、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、ハワイ大学マノア校、カリフォルニア大学バークレー校、イェール大学
イギリス	エディンバラ大学、ダラム大学、サウサンプトン大学、ロンドン大学キングズ・コレッジ、ロンドン大学クイーン・メアリー校、ロンドン大学アジア・アフリカ研究院、ヨーク大学		
イタリア	シエナ大学、フィレンツェ大学、ペルージャ大学、ポローニャ大学、ローマ第3大学、サクロ・クオーレ・カトリック大学、パドヴァ大学		
オーストリア	ウィーン大学		
スイス	チューリッヒ大学		
スペイン	マドリード自治大学		

2019年度 留学生文学研究科在籍者国・地域別人数

- 中国 16名
- ドイツ 4名
- アルメニア 1名
- イタリア 1名
- 英国 1名
- ロシア連邦 1名

学費・奨学制度ほか

文学研究科 学費 (2020年度参考、2021年度の学費は変更になる場合があります。)

修士課程					後期博士課程				
専攻名	合計	在籍基本料	授業料	その他の費用※	専攻名	合計	在籍基本料	授業料	その他の費用※
哲学・倫理学 美学美術史学	1,016,700円	60,000円	950,000円	6,700円	哲学・倫理学 美学美術史学	726,700円	60,000円	660,000円	6,700円
史学	1,017,700円	60,000円	950,000円	7,700円	史学	727,700円	60,000円	660,000円	7,700円
図書館・情報学	1,017,200円	60,000円	950,000円	7,200円	図書館・情報学	727,200円	60,000円	660,000円	7,200円
その他の専攻	1,018,200円	60,000円	950,000円	8,200円	その他の専攻	728,200円	60,000円	660,000円	8,200円

※「その他の費用」には、研究会会費・雑誌購読料、学生自治会費、学生健康保険互助組合費を含む。

大学院向け奨学制度

成績・人物ともに優秀な学生で、研究の意欲を持ちながらも、経済的な理由により修学が困難な学生を対象に、慶應義塾大学大学院では、次のような奨学制度を設けています。詳しくは、本学ウェブサイトをご覧ください。

- ・日本国籍等の学生対象：<http://www.students.keio.ac.jp/com/scholarships/apply/form.html>
- ・外国人留学生対象：http://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/scholarship/intl_student.html

奨学金名	種別	金額(2019年度実績)	対象者	期間
慶應義塾大学大学院奨学金	給付	年額500,000円または600,000円 (金額は研究科で異なる)	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
慶應義塾大学学費支援奨学金	給付	学費の範囲内(平均支給額：年額約300,000円)	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
研究のすゝめ奨学金 (申請時期・条件等は研究科で異なる)	給付	年額300,000円・500,000円・700,000円 (金額は研究科で異なる)	研究科で異なる	1年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	月額30,000円	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
未来先導国際奨学金(入学前申請)	給付	学費全額、生活費月額200,000円 渡航費補助を含む留学準備一時金150,000円	外国人留学生	標準修業 年限
各種指定寄付奨学金 (詳細は上記ウェブサイトをご参照下さい。)	給付	年額100,000円～学費の範囲内	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
日本学生支援機構奨学金 第一種奨学金(貸与無利子)	貸与	修士課程 月額50,000円または88,000円 後期博士課程 月額80,000円または122,000円	日本国籍等の学生	標準修業 年限
日本学生支援機構奨学金 第二種奨学金(貸与有利子)	貸与	月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・ 150,000円(金額は本人が選択)	日本国籍等の学生	標準修業 年限
文部科学省外国人留学生学習奨励賞	給付	月額48,000円	外国人留学生	1年
スーパーグローバル大学創成支援事業国費 外国人留学生	給付	学費免除、月額144,000円～145,000円	外国人留学生	1年以内
民間団体・地方公共団体の各種奨学金 (詳細は上記ウェブサイトをご参照下さい。)	給付 貸与	奨学団体の規定による	日本国籍等の学生 外国人留学生	奨学団体 による

金額等については変更することもあります。詳細は在籍キャンパスの掲示板で確認して下さい。

(注)対象者の「外国人留学生」とは、在留資格「留学」を有する者(取得予定を含む)。また、「日本国籍等の学生」には、外国籍の場合、永住者・定住者等の在留資格を有する者を含む。

教育訓練給付制度 https://www.hellowork.go.jp/insurance/insurance_education.html

文学研究科修士課程図書館・情報学専攻情報資源管理分野は、厚生労働省教育訓練給付制度の専門実践教育訓練給付金の対象講座に指定されています。

留学生宿舎 http://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/housing/ryu_boshu.html

慶應義塾大学に在学する外国人留学生で、原則在留資格が「留学」の方を対象に、年2回(3月下旬、9月上・中旬入居)、留学生宿舎の入居者を募集しています(入居期間は全て最長1年)。

宿舎名	形態	寮費※	個室の広さ	最寄り駅
下田学生寮	単身用	63,500円	16㎡	東急 日吉駅 徒歩13分
網島学生寮	単身用	78,000円	15.99㎡または16.60㎡	東急 網島駅 徒歩7分
プラム・イズ	単身用	68,300円	18㎡	JR 新川崎駅 徒歩16分
大森学生寮	単身用	68,000円	12.28㎡	京急 梅屋敷駅 徒歩12分 JR 蒲田駅 徒歩15分
元住吉宿舎	単身用	64,000円	23.5㎡	東急 元住吉駅 徒歩10分 東急 日吉駅 徒歩8分
大倉山ドミトリー	単身用	55,000円	13.8㎡	東急 網島駅 徒歩15分
日吉国際学生寮	1ユニット=4個室 +共用施設	72,000円	9～10㎡(個室部分)	東急 日吉駅 徒歩18分 日吉キャンパス 徒歩10分
網島SST国際学生寮	単身用	78,400円	17.40～18.85㎡	東急 網島駅 徒歩10分
元住吉国際学生寮	単身用	75,700円	14.06～14.17㎡	東急 元住吉駅 徒歩8分

※入寮時に、別途清掃維持管理費20,000円がかかります。なお、家賃は必要に応じて改定されることがあります。

2020年4月1日現在

入試日程・入試データ

2021年度 文学研究科 入試日程一覧 (一般入試・外国人留学生入試)

一般入試	秋期 修士	春期 修士/後期博士	外国人留学生入試	秋期 修士	春期 修士
出願登録 (インターネット)	2020/7/6～7/17	2020/12/17～ 2021/1/8	出願登録(インターネット)	2020/5/26～6/8	2020/11/6～11/16
出願書類の郵送期間	2020/7/13～7/17	2021/1/6～1/8	出願書類の郵送期間	2020/6/1～6/8	2020/11/10～11/16
第1次試験(筆記試験)	2020/9/16	2021/2/24	書類選考 合格発表	2020/7/14	2020/12/9
第1次試験 合格発表	2020/9/17	2021/2/25	第1次試験(筆記試験)	2020/9/16	2021/2/24
第2次試験(口頭試問)	2020/9/18	2021/2/26	第1次試験 合格発表	2020/9/17	2021/2/25
合格発表	2020/9/18	2021/2/26	第2次試験(口頭試問)	2020/9/18	2021/2/26
入学手続期間	2021/3/1～3/5		合格発表	2020/9/18	2021/2/26
			入学手続期間	2021/3/1～3/5	

文学研究科 志願者・合格者数 (過去3年間の一般入試、外国人留学生入試の総計です。)

修士課程

専攻	定員	2018年度		2019年度		2020年度	
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
哲学・倫理学	10	18	6	22	6	10	7
美学美術史学	25	17	7	19	9	19	7
史学	20	19	11	33	18	26	14
国文学	20	27	10	47	13	36	13
中国文学	5	25	4	16	2	17	2
英米文学	15	21	10	22	11	11	5
独文学	10	6	5	2	1	12	7
仏文学	10	11	1	2	2	6	4
図書館・情報学	20	17	10	17	11	14	11

後期博士課程

専攻	定員	2018年度		2019年度		2020年度	
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
哲学・倫理学	6	5	4	6	4	4	3
美学美術史学	6	4	2	10	9	6	6
史学	10	3	2	4	3	2	2
国文学	6	3	1	3	1	3	2
中国文学	2	1	0	3	2	1	0
英米文学	5	5	3	6	5	9	2
独文学	3	2	2	0	0	2	2
仏文学	2	2	0	2	0	1	1
図書館・情報学	5	2	2	2	1	1	1

入試要項・過去問題閲覧方法

入学試験要項は、一般入試・外国人留学生入試共に、以下のウェブサイトに掲載されています。

【一般入試 修士課程】 <http://grad.admissions.keio.ac.jp/bun-m.html>

【一般入試 後期博士課程】 <http://grad.admissions.keio.ac.jp/bun-d.html>

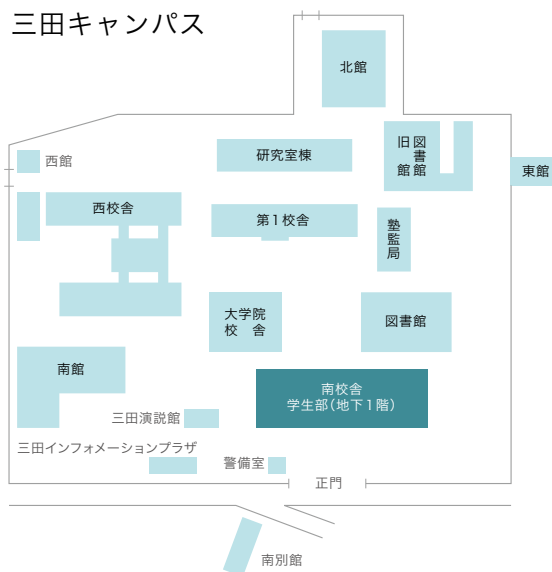
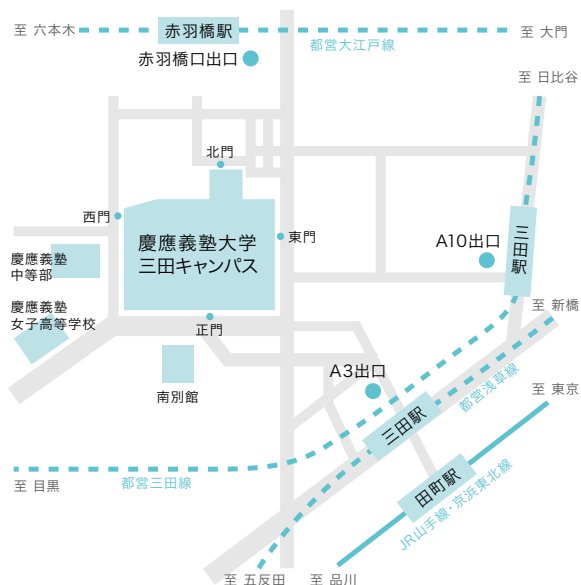
【外国人留学生入試】 <http://grad.admissions.keio.ac.jp/ryu-bun.html>

過去問題は文学研究科が開示可能と判断した部分について、以下のウェブサイトで公開しています。

【過去問題閲覧方法】 <http://grad.admissions.keio.ac.jp/kakomon.html>

また、学生部(三田キャンパス)で、過去3年分の問題を閲覧することができます。複写はできません。

Access Information



交通アクセス

- JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩 8分)
- 都営浅草線・都営三田線 三田駅下車(徒歩 7分)
- 都営大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩 8分)

主要駅からのアクセス

東京駅 ● JR 山手線・京浜東北線 ● 田町駅
所要時間約 10 分

新宿駅 ● JR 山手線 (渋谷・品川方面行) ● 田町駅
所要時間約 25 分



慶應義塾大学 大学院案内 2021
文学研究科
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
<https://www.keio.ac.jp/>

お問い合わせ
学生部文学研究科担当 (南校舎地下 1 階)
03-5427-1555
mita-bun@adst.keio.ac.jp